

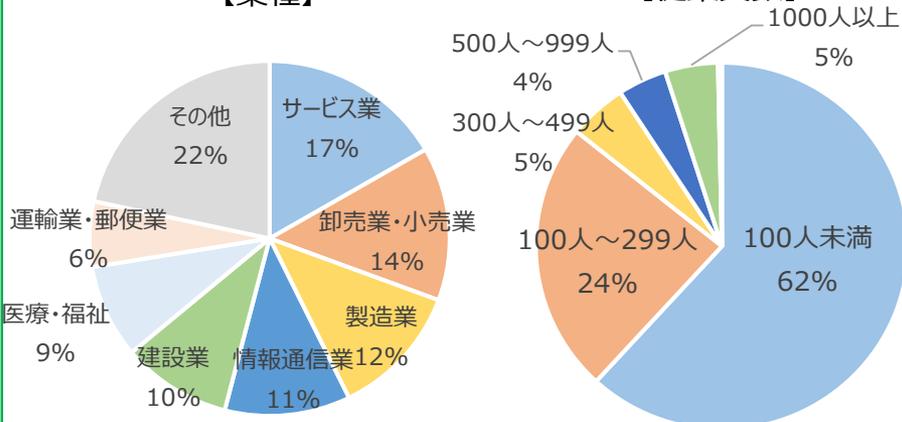
調査の目的

大会期間等における企業や従業員が実施した交通混雑の緩和に資する取組（テレワーク、時差出勤、物流の効率化等）の状況、大会後の実施意向、実施上の課題整理等の把握

● 企業へのアンケート調査

- 調査対象：都内企業10,000社（従業員30人以上）
- 実施期間：令和3年9月27日～10月22日
- 調査方法：対象企業・団体等に調査票を郵送し、インターネット又は郵送で回答を回収
- 回答数：2,349社（回収率 23.4%）
- 質問項目：全19問
 - 大会期間前後の従業員の出勤状況、テレワーク・時差出勤の実施状況、休暇の取得状況、物流効率化の取組状況
 - スムーズBizに取り組んだきっかけ、取組推進にあたっての意見 等

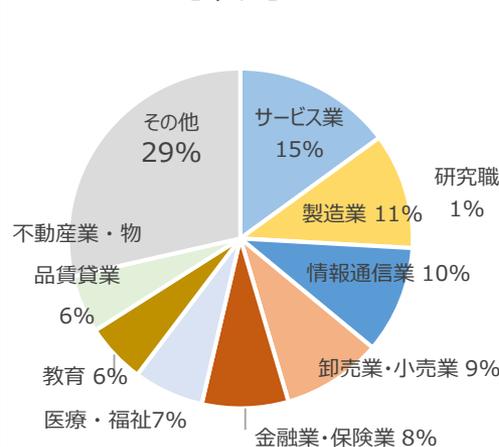
【業種】



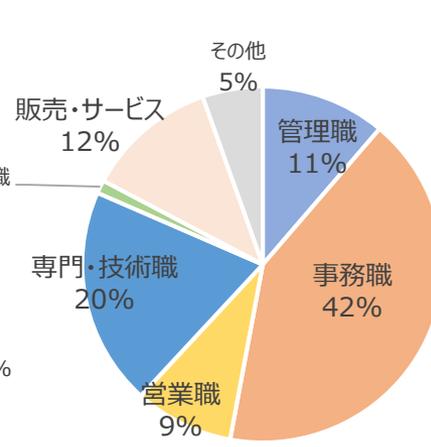
● 従業員へのアンケート調査

- 調査対象：都内企業に勤める18歳以上の従業員1,000人
(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の居住者)
- 実施期間：令和3年9月17日～9月27日
- 調査方法：インターネット
- 回答数：1,000名
- 質問項目：全18問
 - 大会期間前後のテレワーク・時差出勤の実施状況、休暇の取得情報、物流効率化の取組状況
 - スムーズBizに取り組んだきっかけ、取組推進にあたっての意見 等

【業種】



【職種】

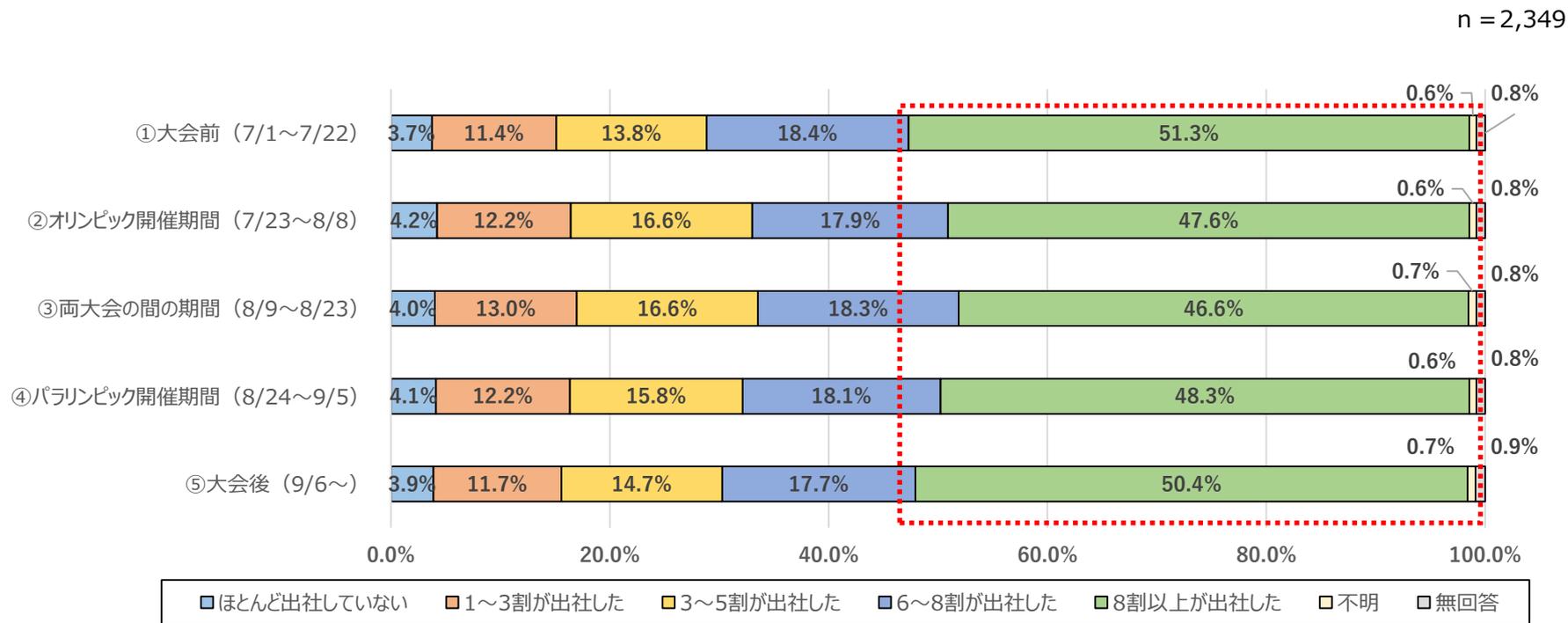


1 企業へのアンケート調査

◆ 出社状況 ◆

- 各期間中（大会前、大会期間、大会の間の期間、大会後）の出社割合の状況は同じ傾向である。
- 「8割以上の出社」が5割前後で最も多く、次いで「6～8割の出社」が2割弱であった。

Q 従業員の出社割合について伺います。以下の各期間中の平均的な値をお選びください。（それぞれ1つずつ選択）
※平日における正午時点の出社割合（社（事業所）全体でのおおよその割合）でお答えください。

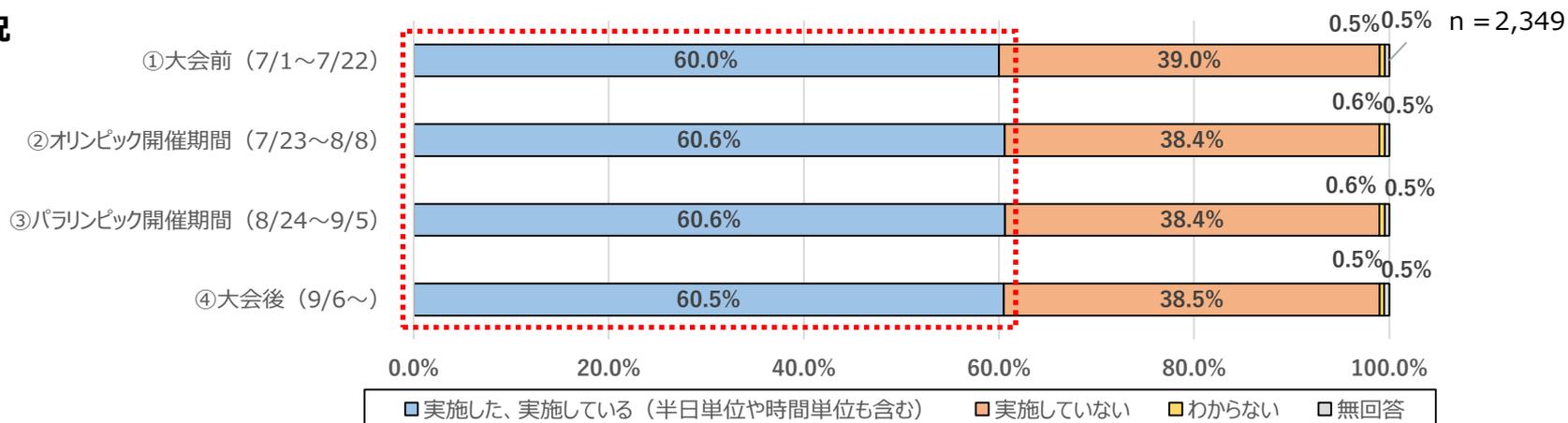


◆テレワークの実施状況◆

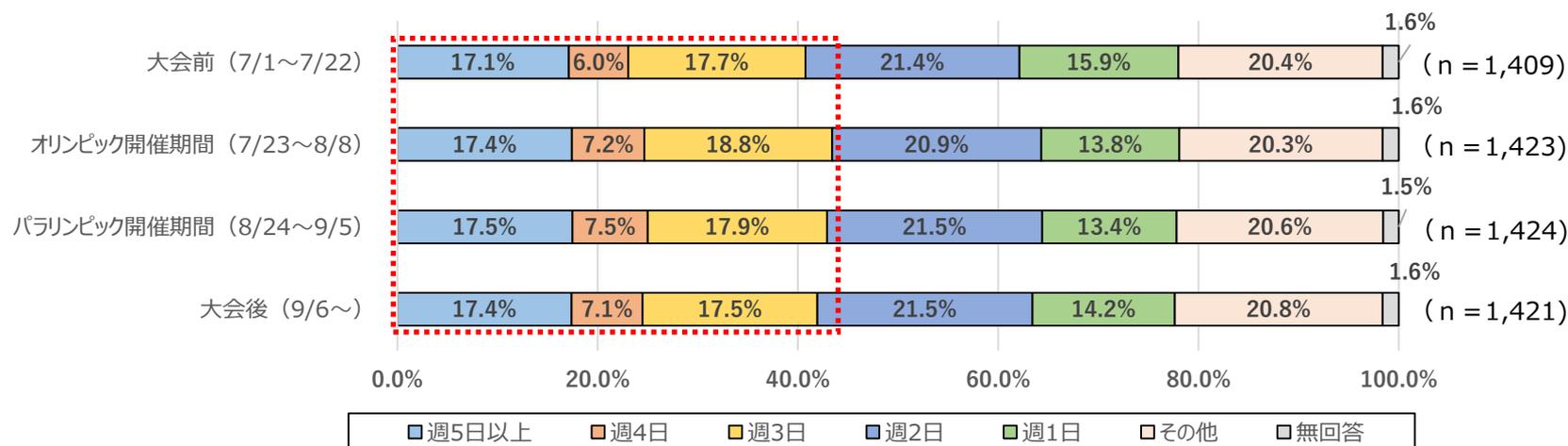
- 各期間中（大会前、大会期間、大会後）のテレワーク実施率は約6割である。
- 週2日の実施が2割強と最も多く、週3日以上の実施では、4割を超える。

Q 各期間中のテレワークの実施状況と実施程度についてお聞かせください。

①実施状況



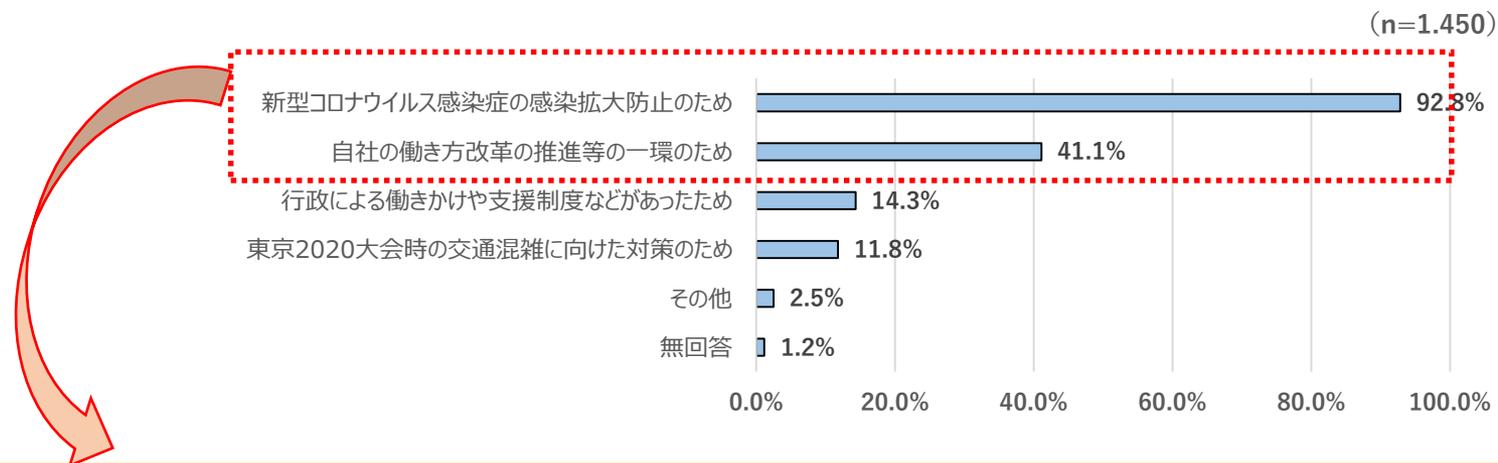
②実施程度



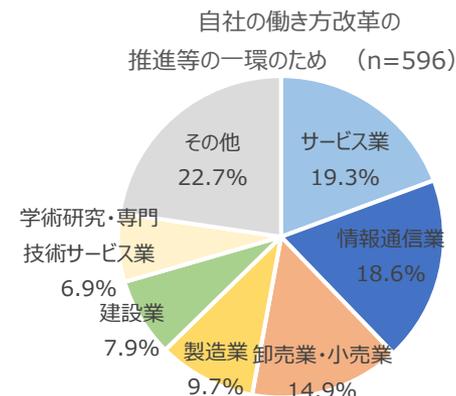
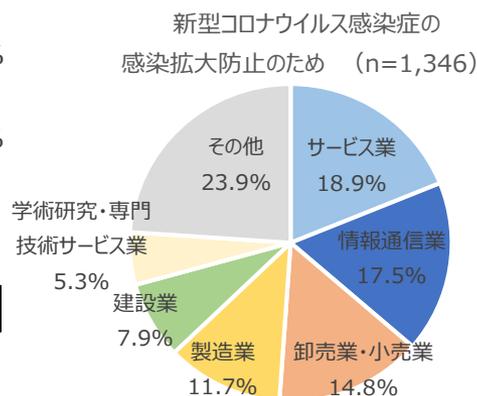
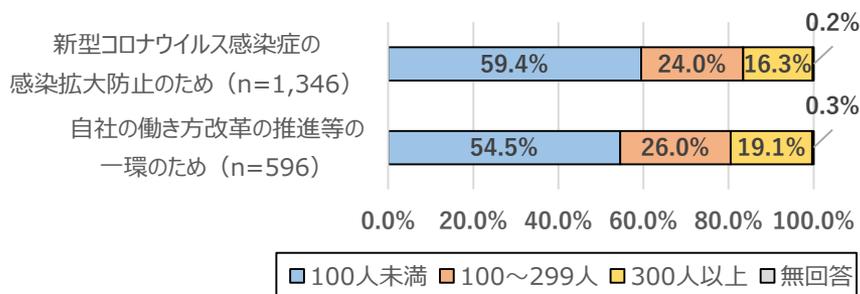
◆テレワークの実施状況（実施理由）◆

○テレワークを始めたきっかけは、「新型コロナウイルス感染拡大防止」「自社の働き方改革の一環」の順に多く、「大会時の交通混雑に向けた対策」も一定程度ある。

Q テレワークを始めたきっかけ（複数回答可）



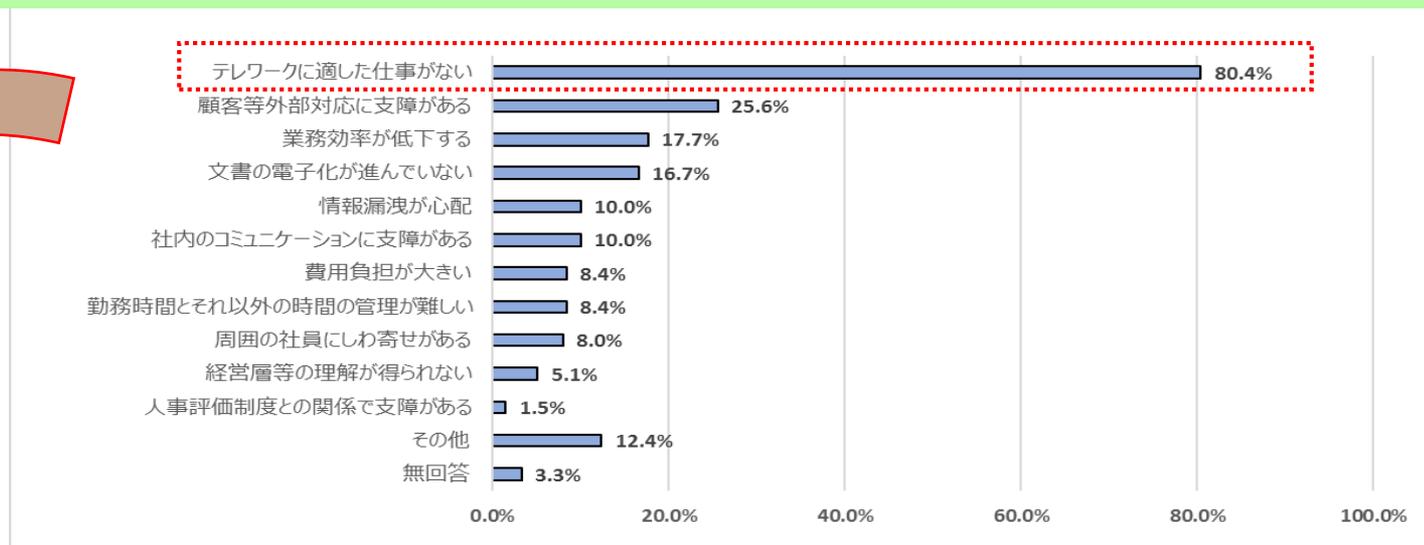
👉 企業内訳（従業員数規模・業種）



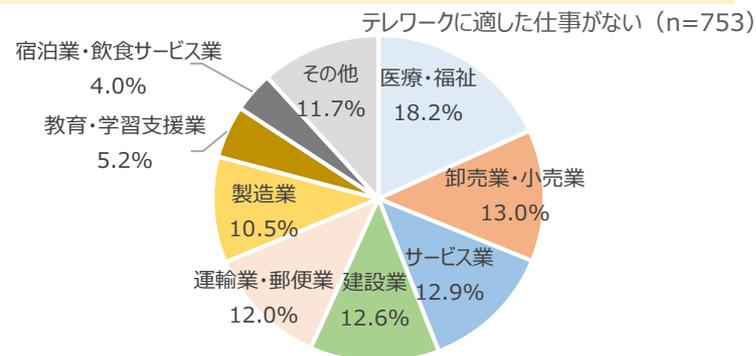
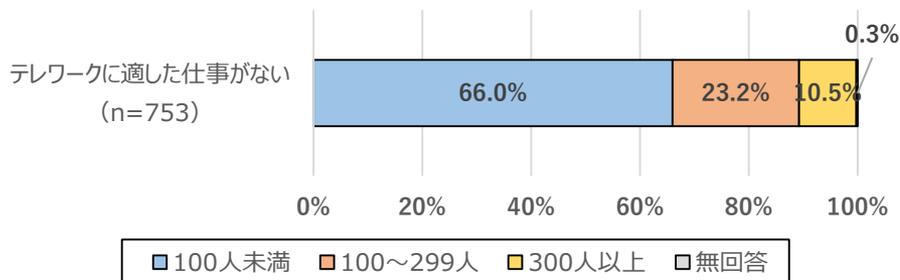
◆テレワークの実施状況（実施していない理由）◆

○実施していない理由は、「テレワークに適した仕事がない」が最も多い。

Q テレワークを実施していない理由（複数回答可）



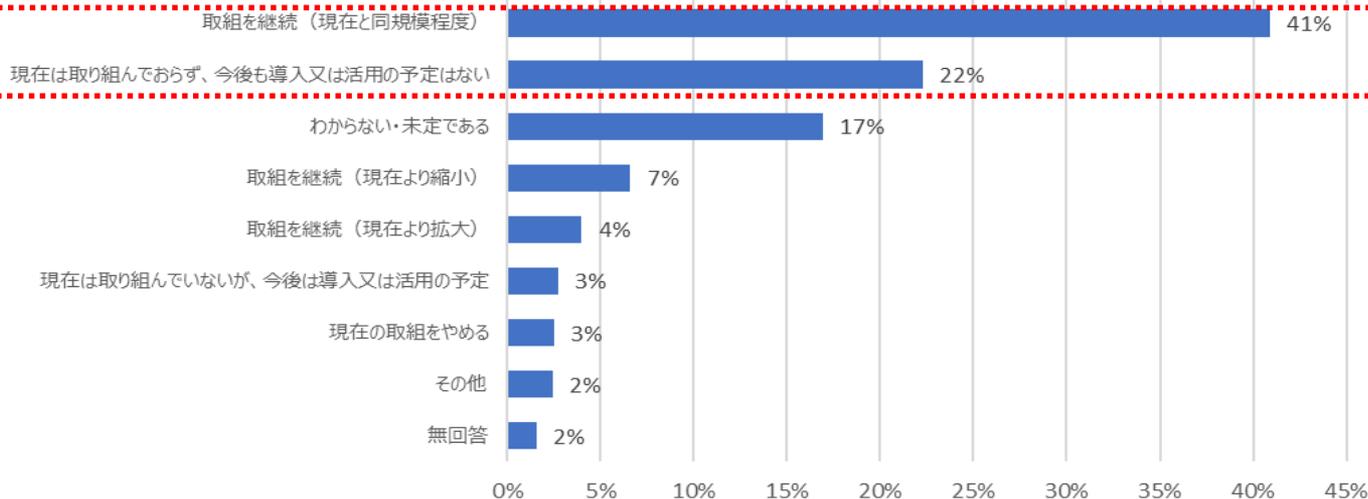
👉 企業内訳（従業員数規模・業種）



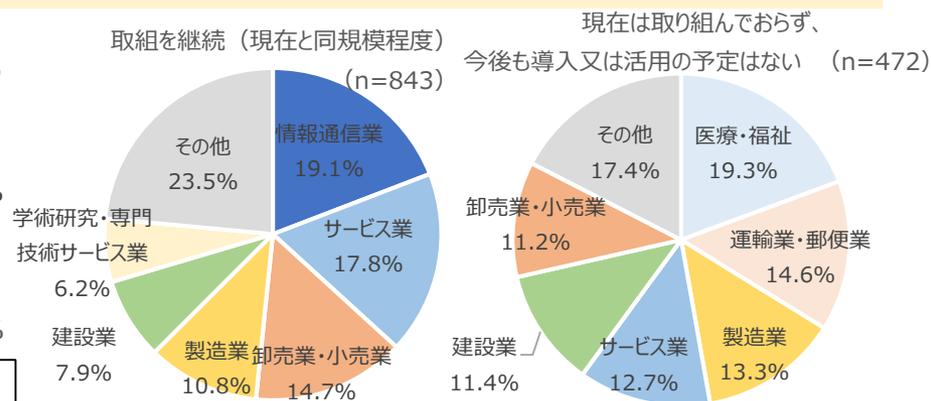
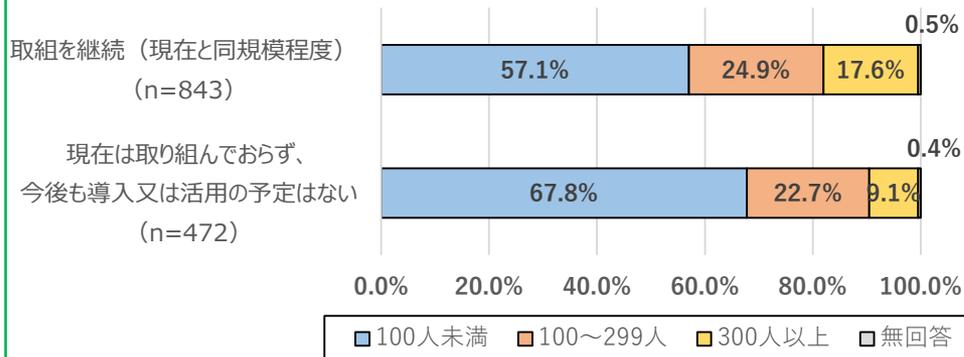
◆テレワークの実施状況（今後の取組意向）◆

○今後の取組意向は、「取組を継続」が最も多く、次いで「今後も導入又は活用の予定はない」であった。

Q 今後のテレワークの取組意向・考え（1つ選択回答）



👉 企業内訳（従業員数規模・業種）

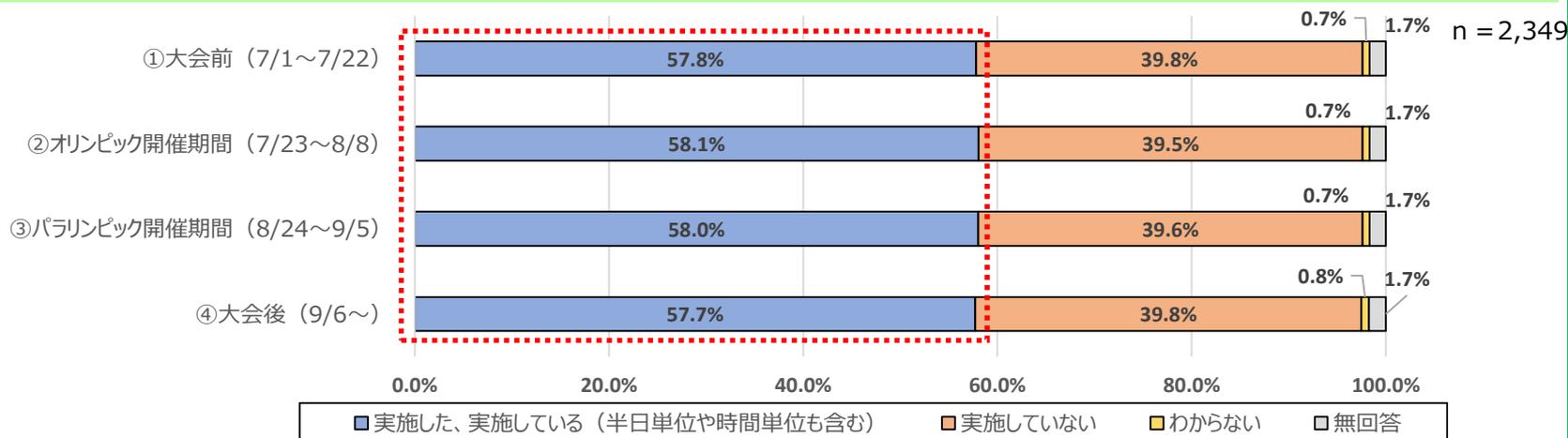


◆時差出勤・フレックスタイム制の取組状況◆

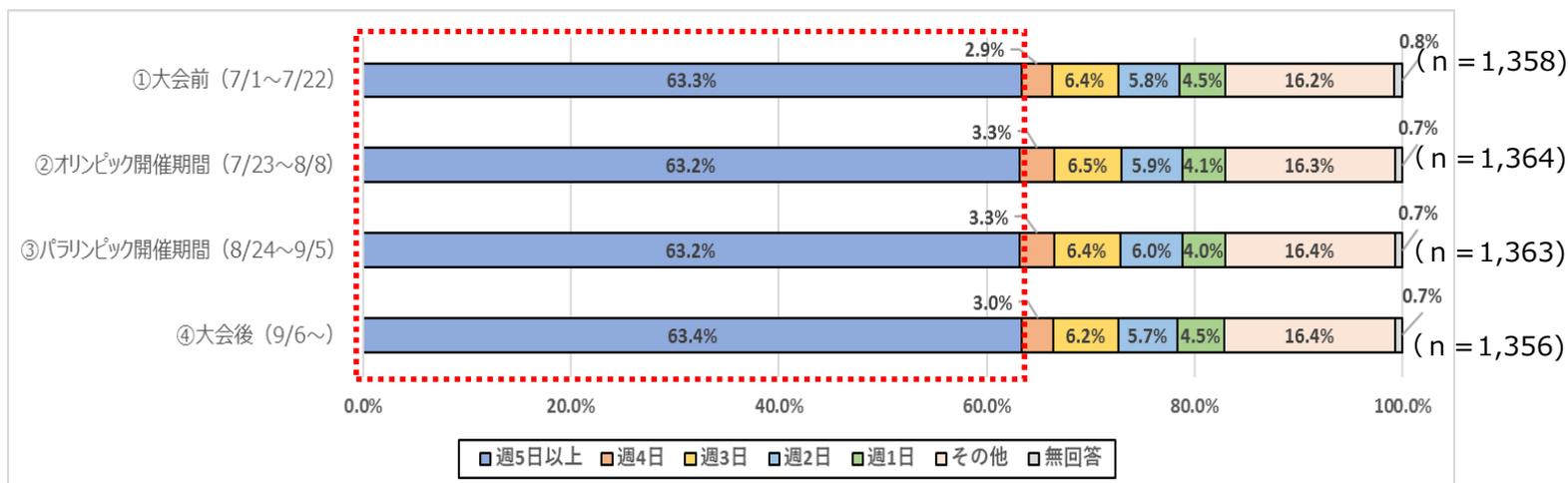
- 各期間中（大会前、大会期間、大会後）の時差出勤・フレックス制の実施率は約6割である。
- 週5日以上の実施が6割以上と最も多い。

Q 大会前後、大会期間中の時差出勤・フレックスタイム制の実施状況、実施程度について

①実施状況



②実施程度

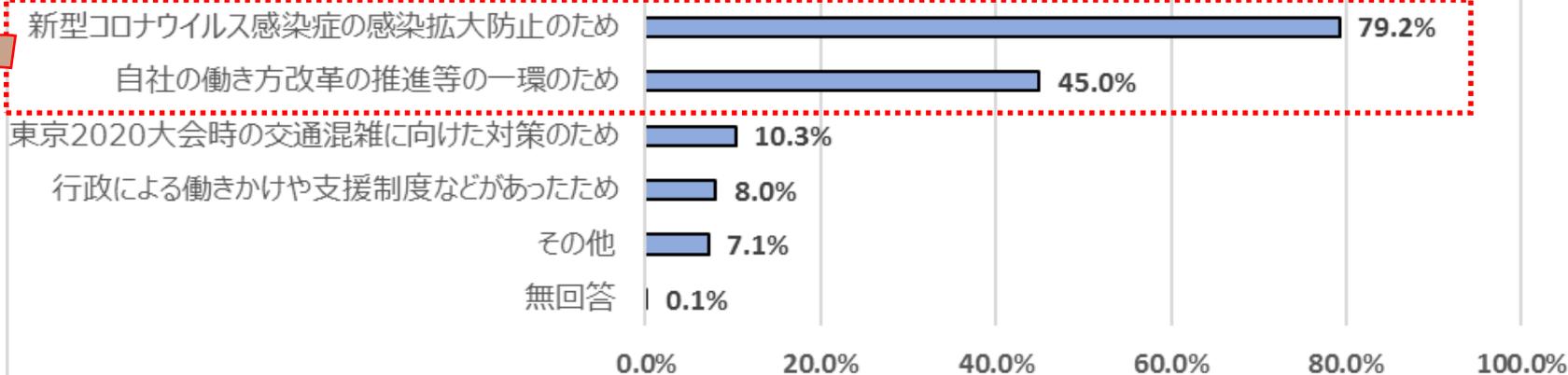


◆時差出勤・フレックスタイム制の取組状況（実施理由）◆

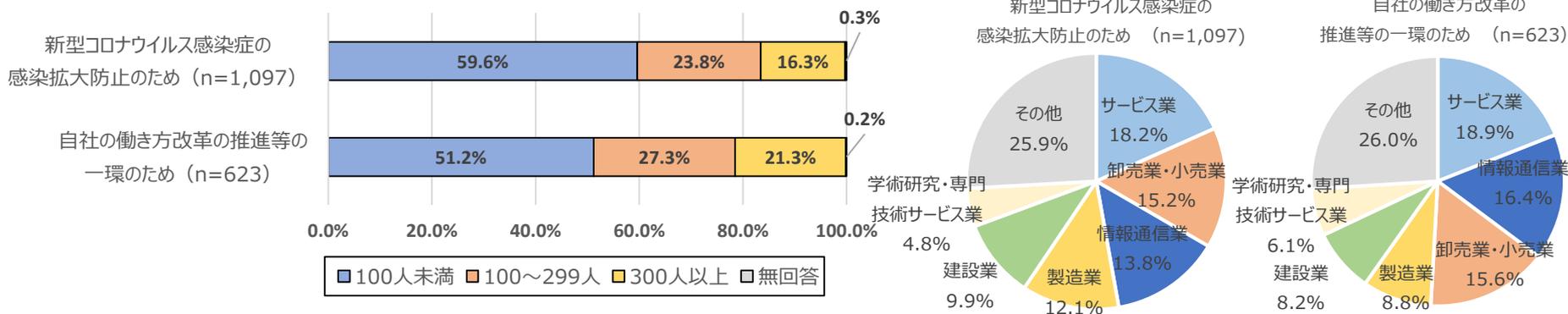
○導入のきっかけは、「新型コロナウイルス感染拡大防止」が最も多く、次いで「自社の働き方改革の一環のため」であった。

Q 導入・活用した理由・きっかけ（複数回答可）

n = 1,385



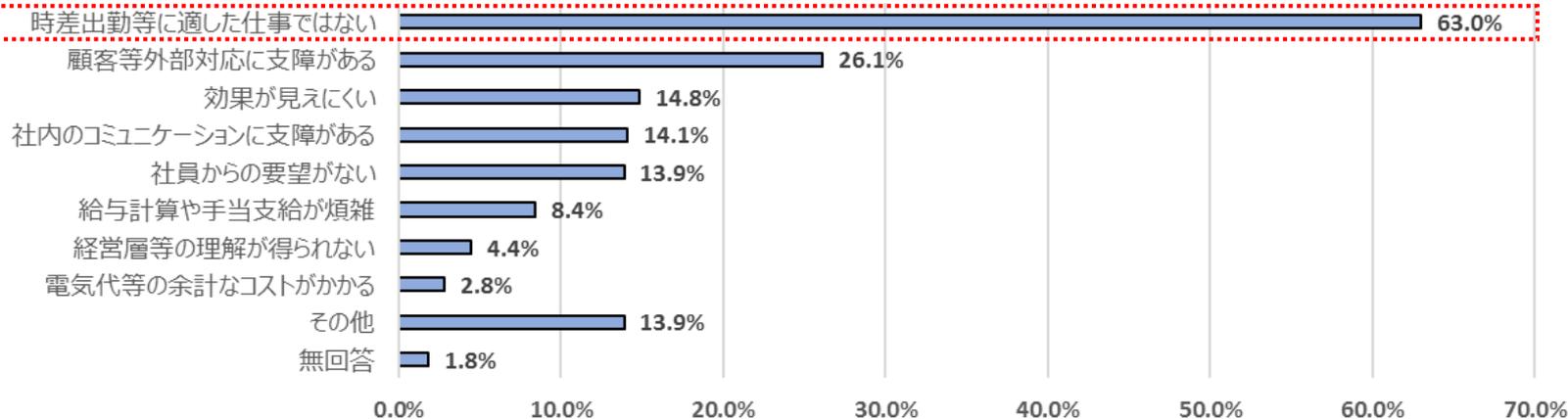
👉 企業内訳（従業員数規模・業種）



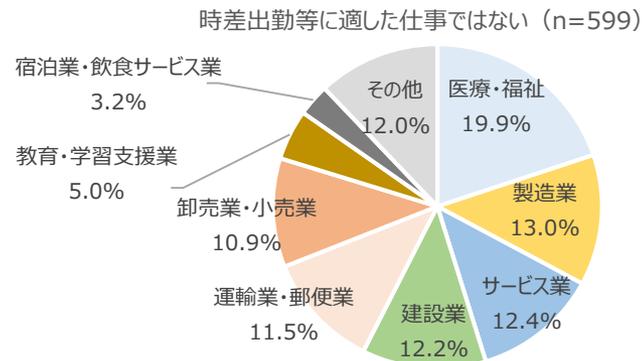
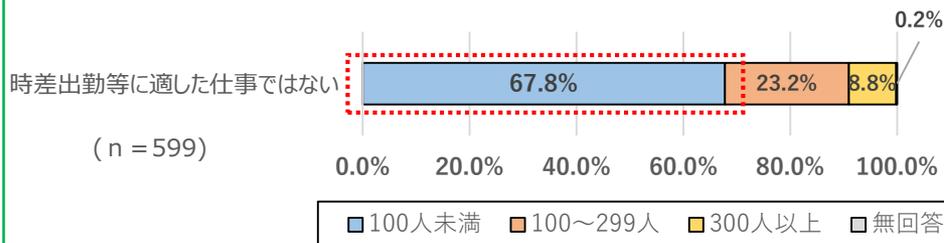
◆時差出勤・フレックスタイム制の取組状況（実施していない理由）◆

○実施していない理由は、「時差出勤等に適した仕事ではない」が最も多い。

Q 実施していない理由（複数回答可）



👉 企業内訳（従業員数規模・業種）

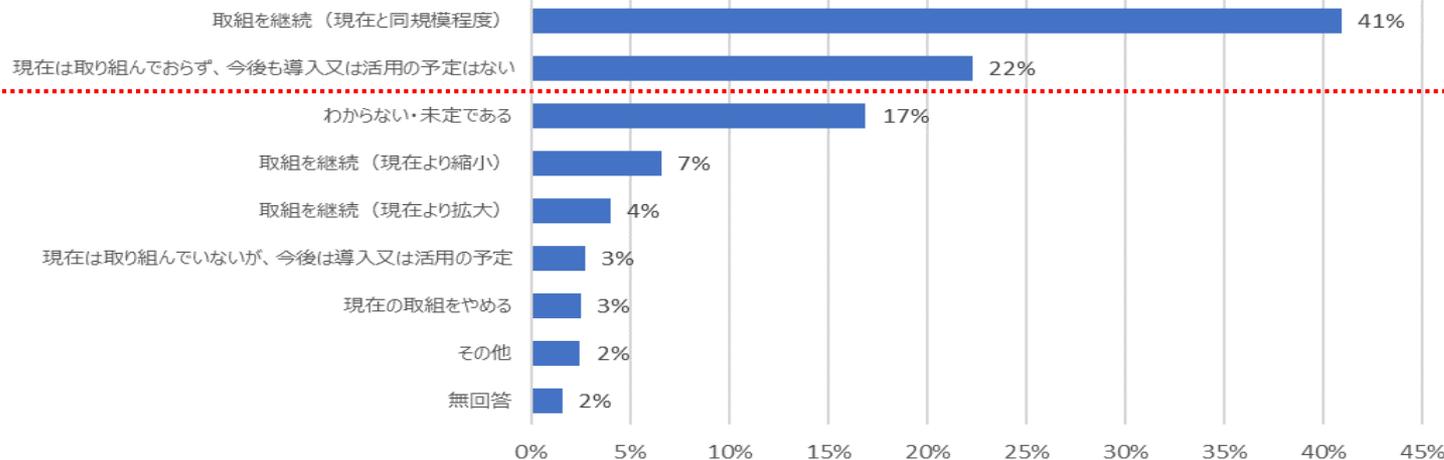


◆時差出勤・フレックスタイム制の取組状況（今後の取組意向）◆

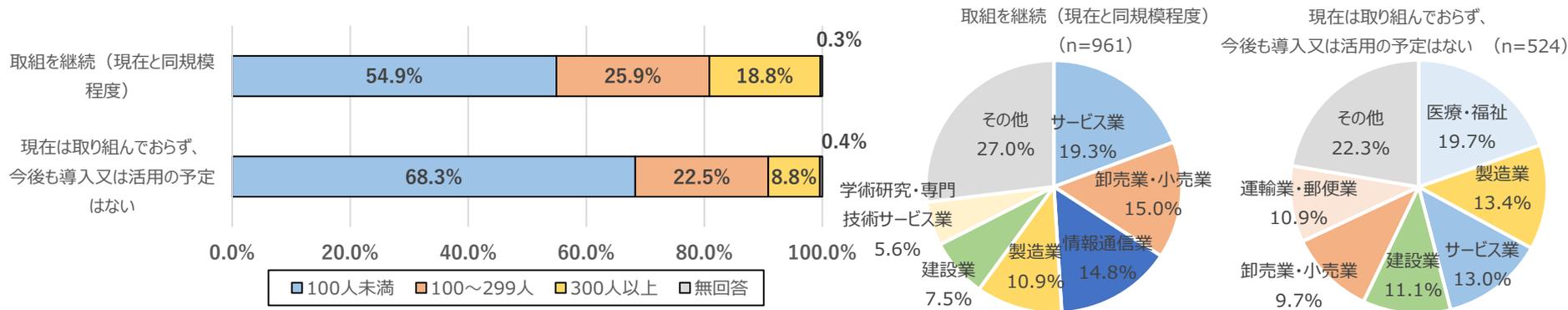
- 今後の取組意向については、「取組を継続」が最も多く、次いで「今後も導入又は活用の予定はない」であった。
- 回答企業の構成割合※と比較して従業員数規模が大きいほど「取組を継続」の割合が高く、小さいほど導入に消極的な傾向である。

※100人未満：1,452社（62%）、100人～299人：562社（24%）、300人以上：327社（14%）、無回答：8社

Q 時差出勤・フレックスタイム制の取組の意向（1つ選択）



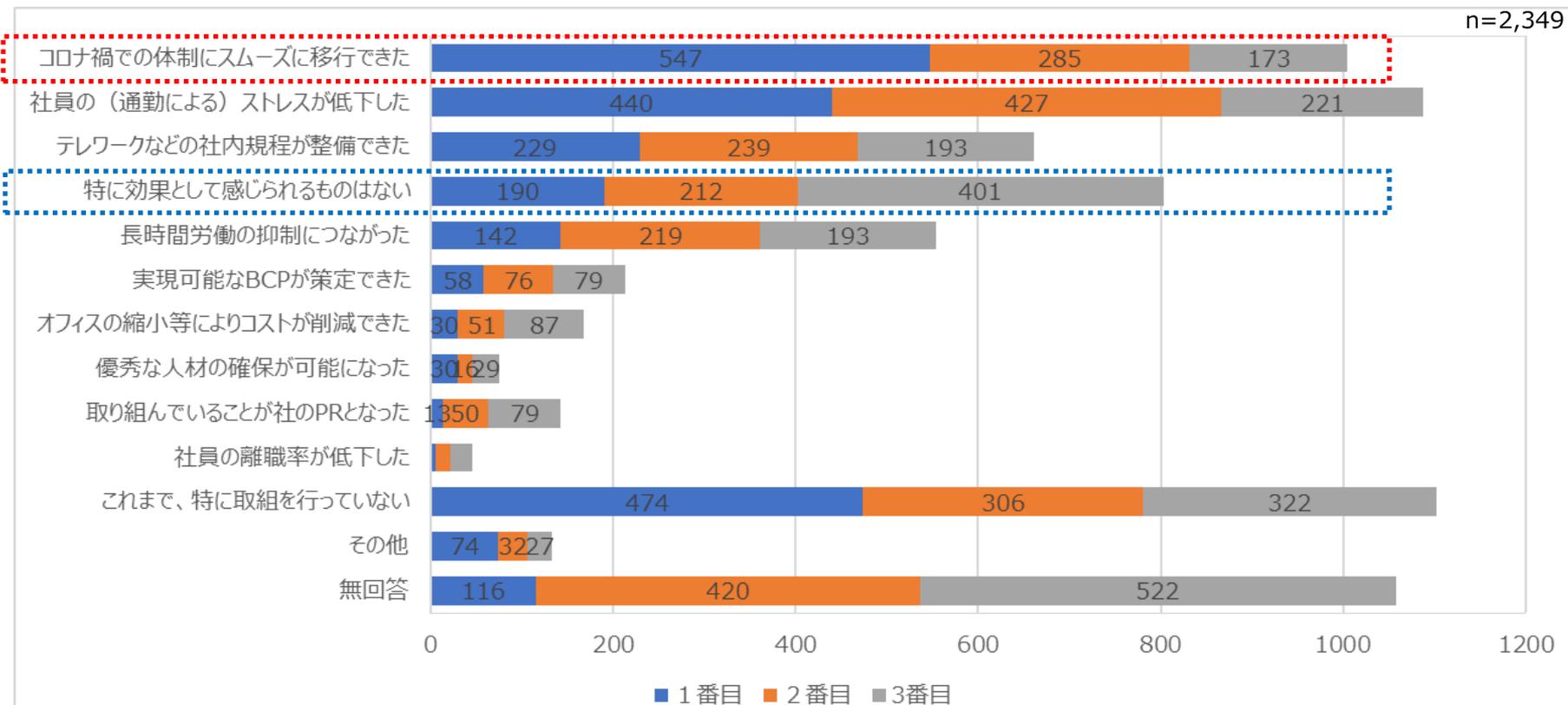
👉 企業内訳（従業員数規模・業種）



◆テレワークや時差出勤など、多様な働き方を実践してきた効果◆

- 1番の効果として、「コロナ禍での体制にスムーズに移行できた」が最も多く、「社員のストレスが低下した」の割合も高い。
- 社内規程の整備や長時間労働の抑制等の効果が見られるものの、まだ効果を実感していないという回答も多くみられた。

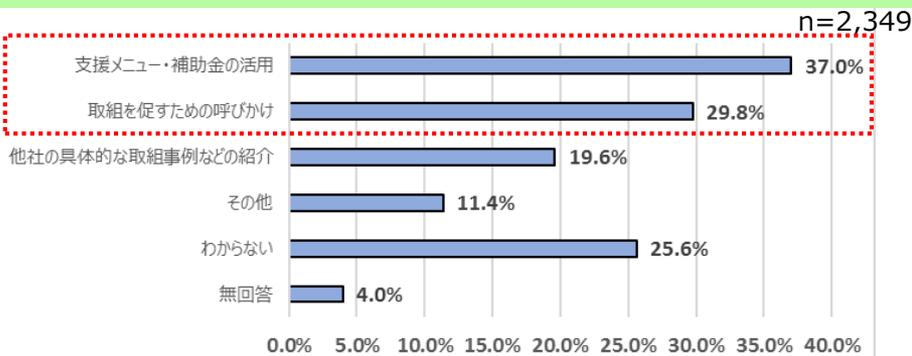
Q これまで、テレワークや時差出勤など多様な働き方を実践してきた効果（1番から3番まで順位付けで回答）



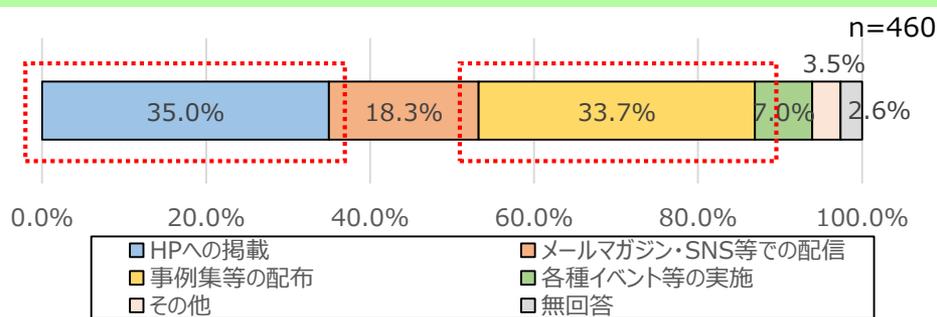
◆呼びかけの実施主体・効果的な取組事例など◆

- 取組を継続するために必要と思われるものは、「支援メニュー・補助金の活用」が最も多く、次いで「取組を促すための呼びかけ」であった。
- 呼びかけの主体としては、「国・自治体」が最も多く、「経済団体・業界団体」も2割程度あった。
- 取組事例の発信に有効な手段は、「HPへの掲載」と「事例報告集の配布」が3割を超えた。
- 取組の継続に最も効果的なメニューは、「補助金」が約9割で最も多い。

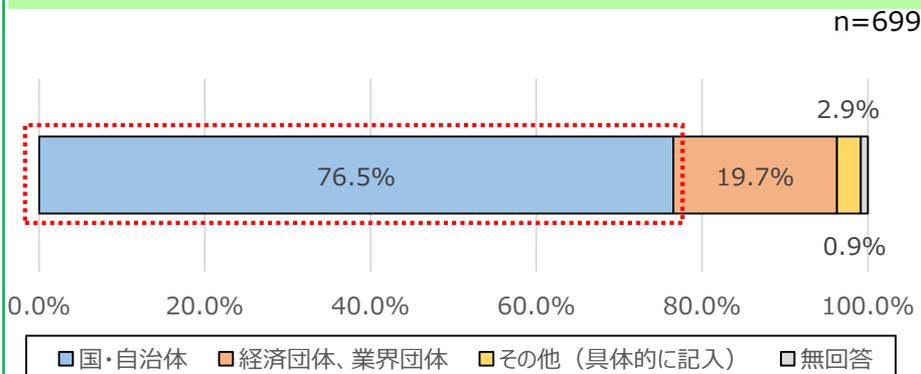
Q 今後もテレワークや時差出勤等の取組を継続するために必要と思われるもの（複数選択可）



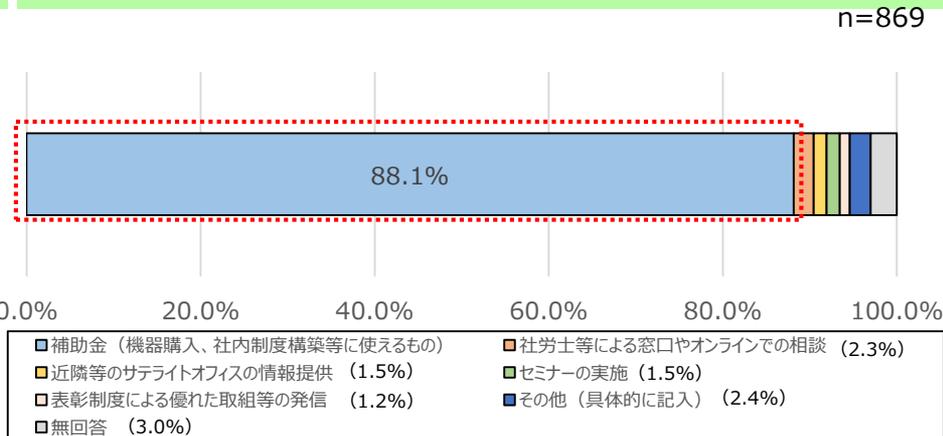
Q 取組事例を発信する際に最も効果的と思われる媒体（1つ選択）



Q 呼びかけの実施主体として最も適当なもの（1つ選択）



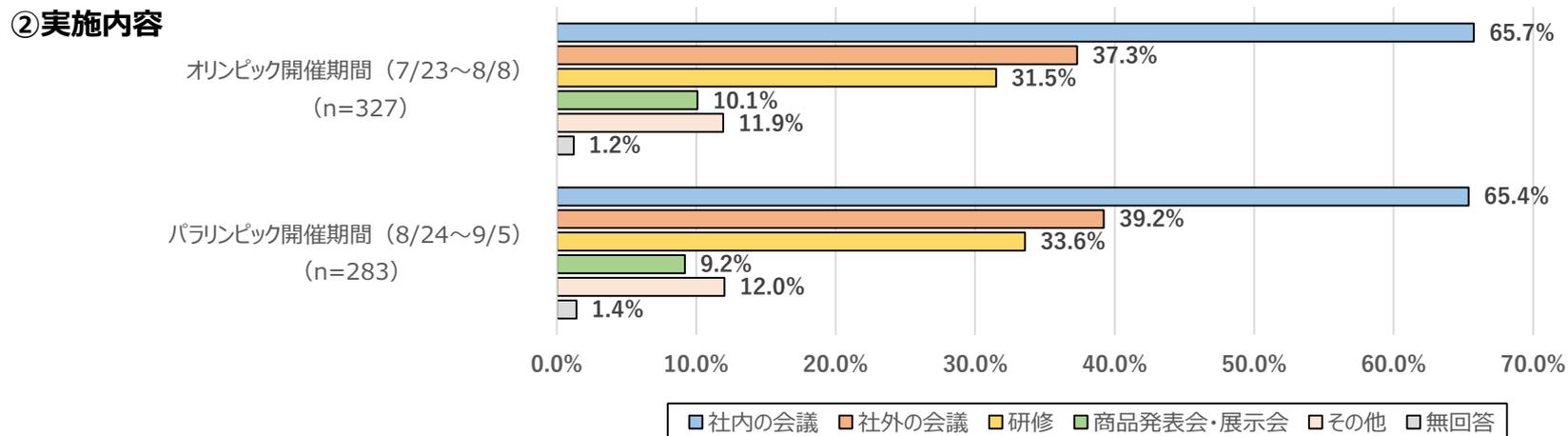
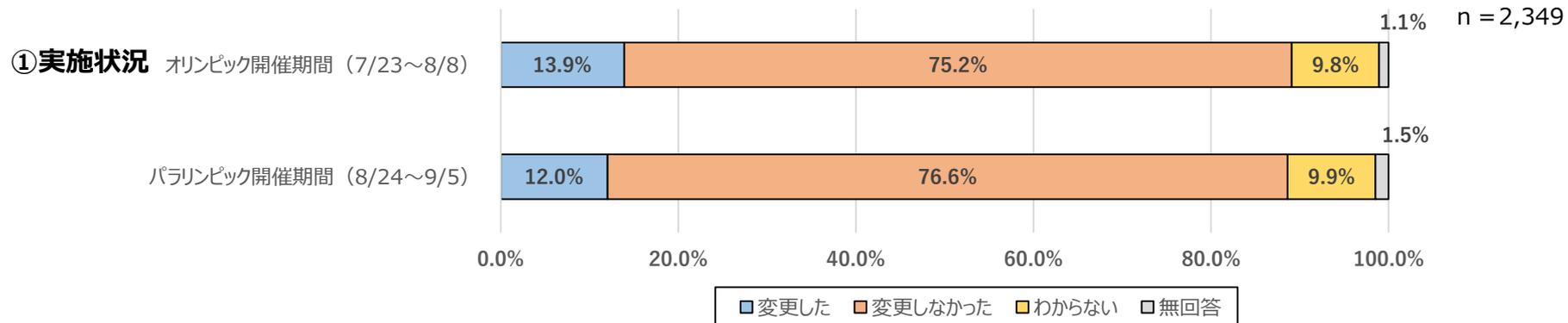
Q 取組の継続に最も効果的と思われるメニュー（1つ選択）



◆大会期間における会議・イベントの予定変更の実施状況・実施内容◆

- 大会期間中、会議・イベントの予定を「変更した」は1割程度で、「変更しなかった」が7割強見られた。
- 実施内容は、「社内の会議」が最も多く、次いで「社外の会議」「研修」と続いた。

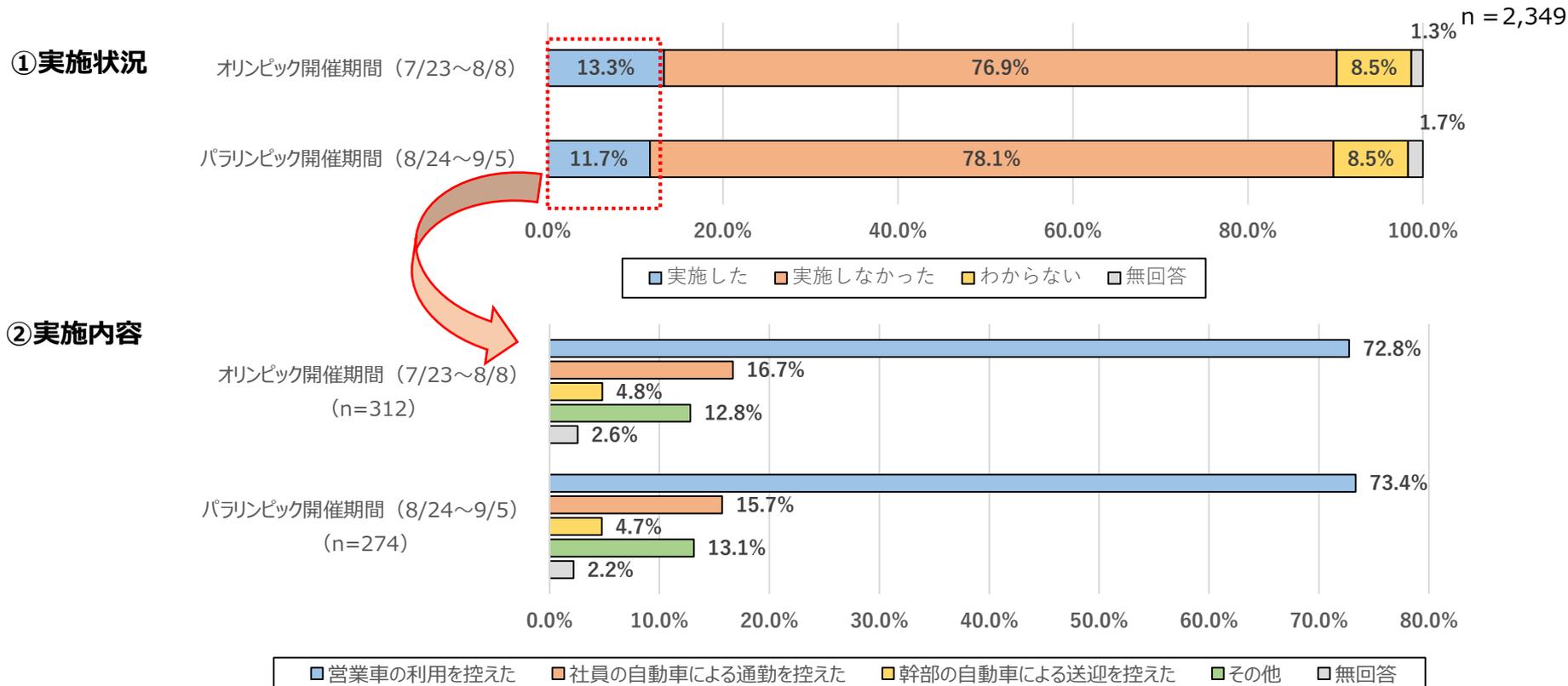
Q 大会期間中の交通混雑緩和のため、会議・イベントの予定変更に関する実施状況とその内容（1つ選択）



◆大会期間中の自動車利用を控える取組の実施状況及び実施内容◆

- 大会期間中、自動車利用を控える取組を「実施した」が約1割で、「実施しなかった」が約8割だった。
- 実施内容は、「営業車の利用を控えた」が最も多く、次いで「社員の自動車による通勤を控えた」であった。

Q 大会期間における自動車利用を控える取組の実施状況と実施内容



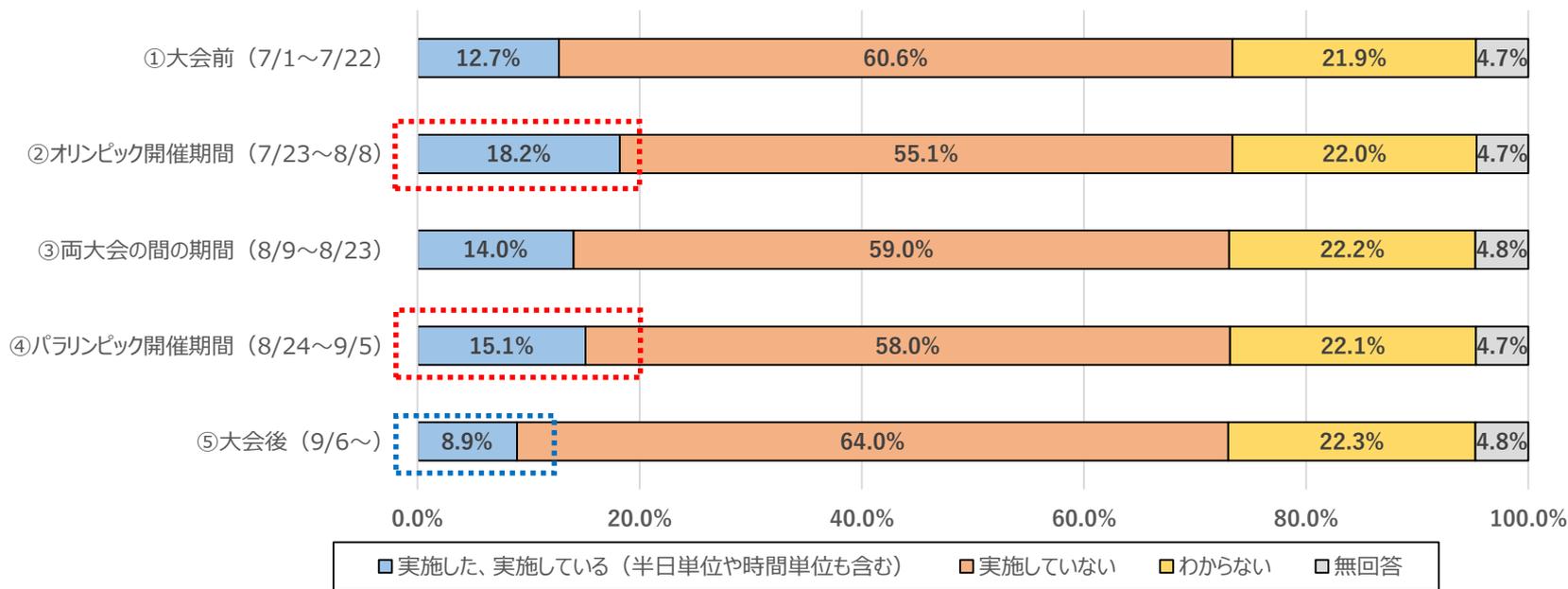
※その他には、「業務用車の迂回を指示した」、「送迎者の運行時間を変更した」、「リモートで対応できるものは可能な限りリモートで行うように指示」、「移動時は優先される時間帯や路線を避けるように指示をした」、「休業にした」等があった。

◆物流効率化の取組状況◆

- 大会前後と両大会の間の期間と比べて大会期間中は「実施した・実施している」の割合が高い。
- 大会後は「実施した・実施している」の割合が低くなっている。

Q 大会前後・大会期間中における物流の効率化に関する取組の実施状況

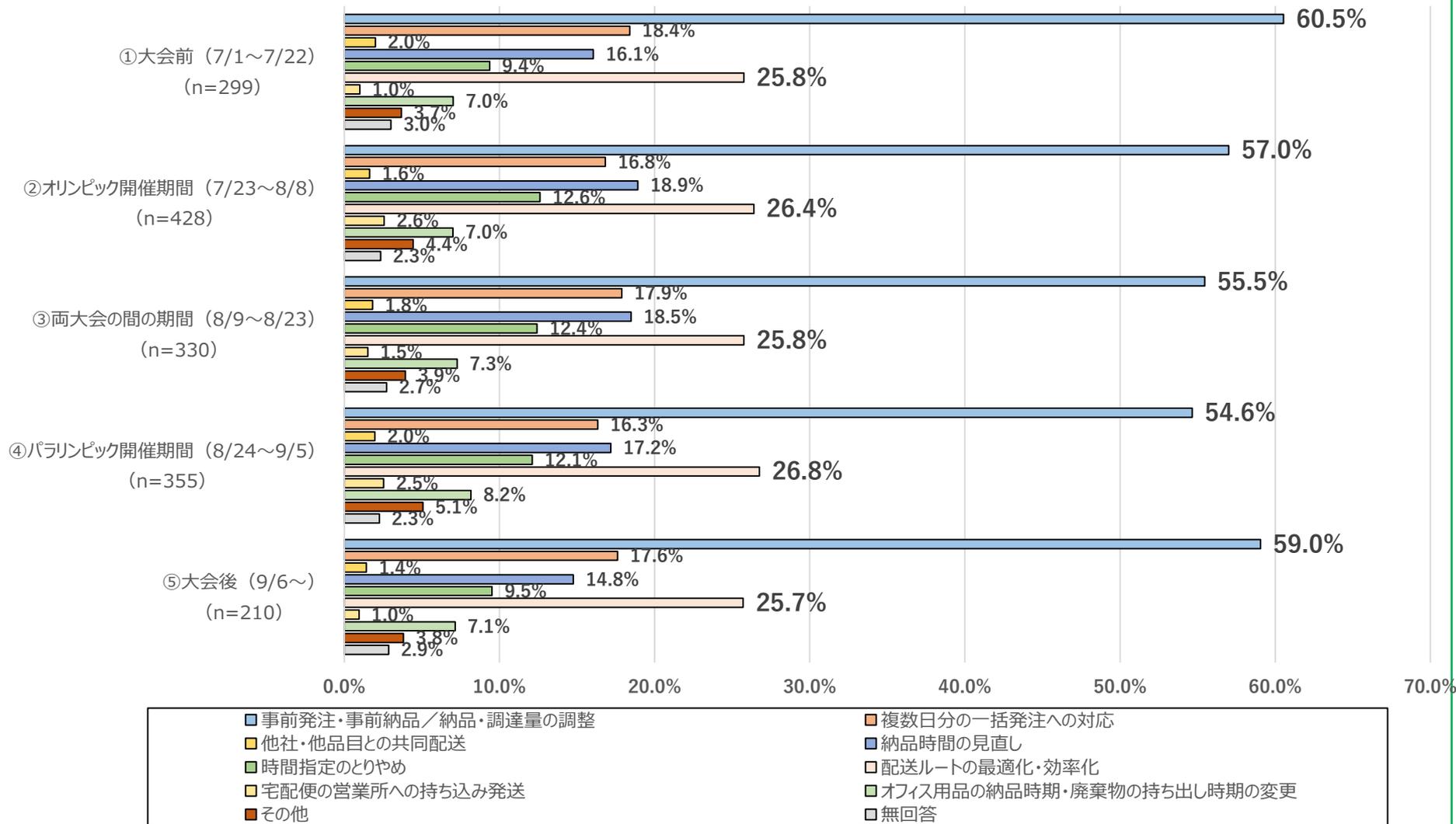
n = 2,349



◆ 物流効率化に関する実施内容 ◆

○各期間ともに「事前発注・納品／納品・調達量の調整」が最も多く、次いで「配送ルート最適化・効率化」であった。

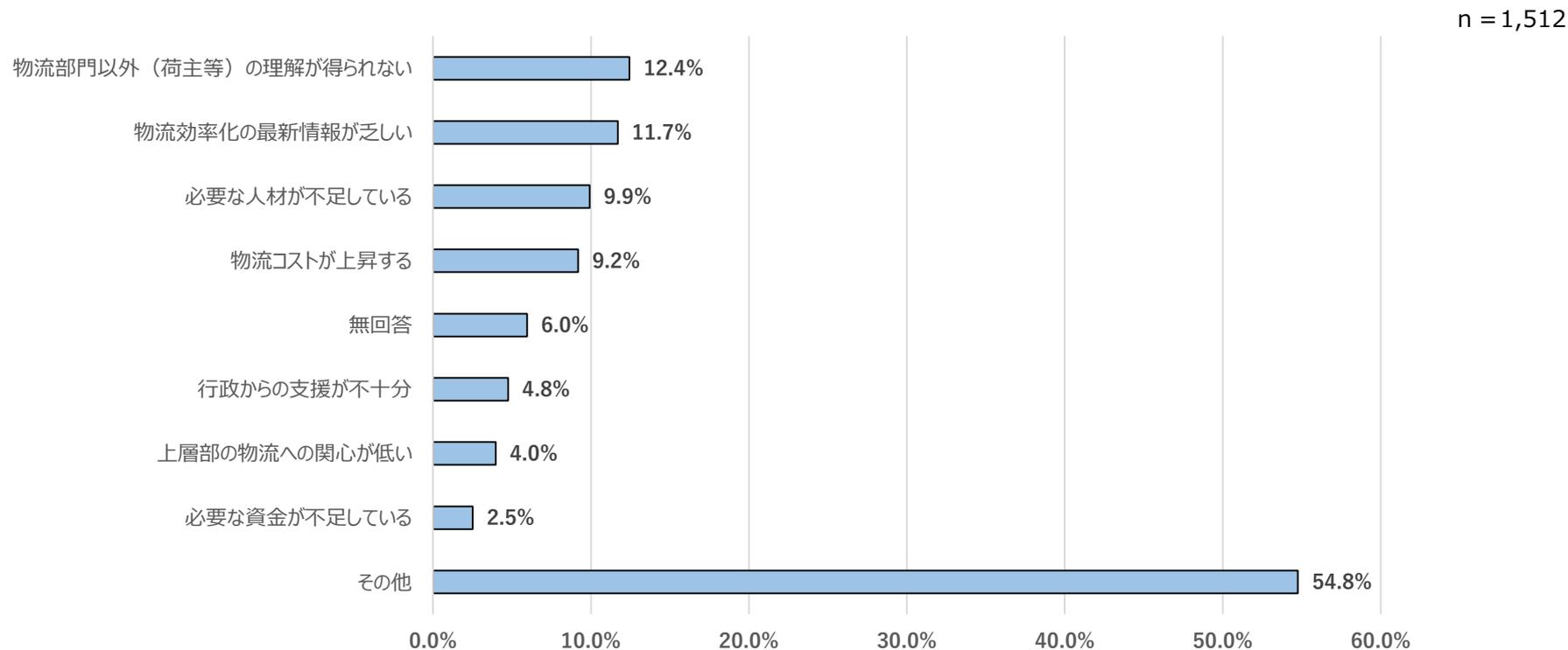
Q 大会前後・大会期間中における物流の効率化に関する実施内容



◆ 物流の効率化に関する取組を実施しない理由 ◆

○ 物流の効率化に関する取組を実施しない理由では、「荷主等の理解が得られない」、「最新情報が乏しい」の回答が多い。

Q 物流の効率化に関する取組を実施しない理由（複数選択可）



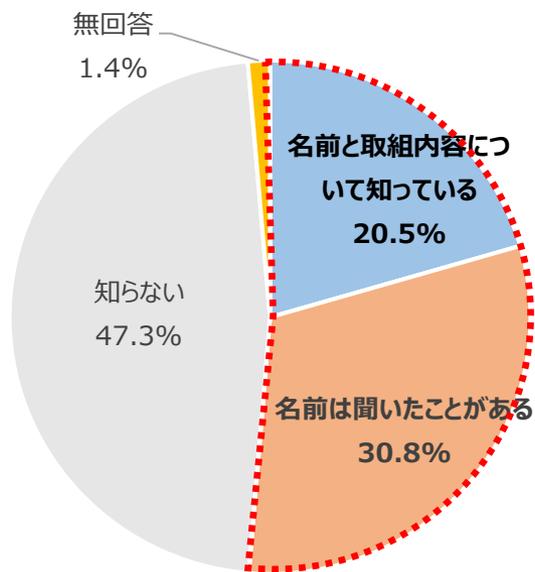
○その他には、「物流効率化の取り組み自体が知らない」、「必要性が感じられなかった」、「物流に関する業務をしていない」等の意見が多くみられた。

◆スムーズBizについて◆

- 認知度は、約 5 割（名前も取組内容を知っている：約 2 割、名前は聞いたことがある：約 3 割）である。
- スムーズBiz実施の後押しになったものとして、「テレワークの制度導入等への費用助成」が最も多く、次いで「広報等による取組機運の醸成」であった。

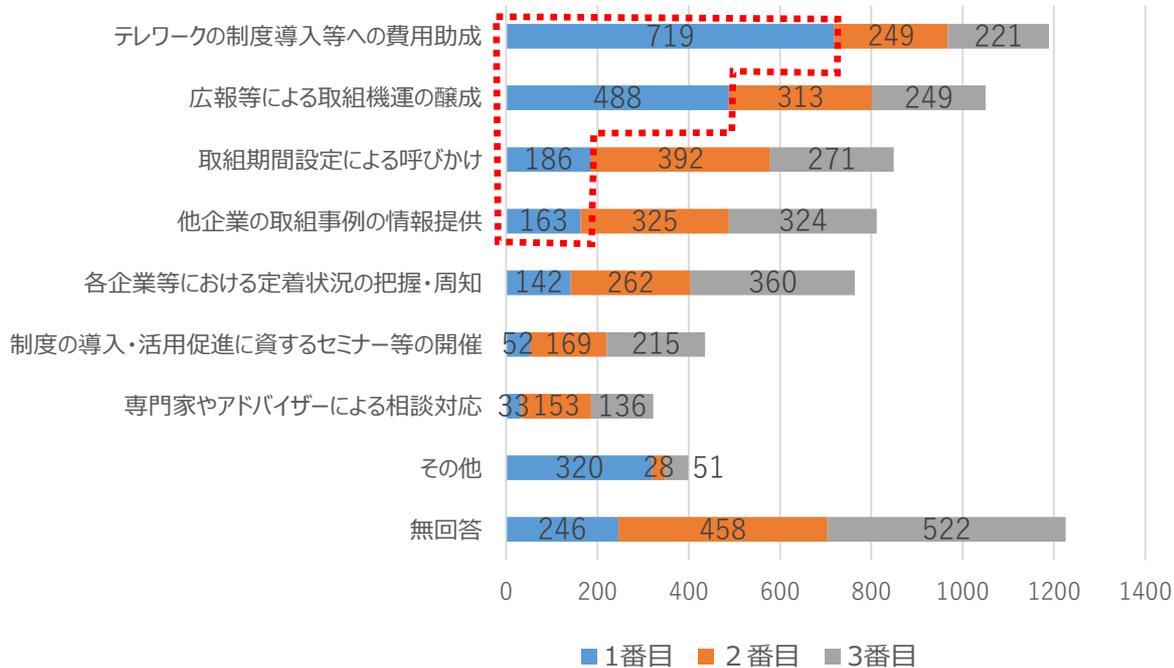
Q スムーズBizの認知度（1つ選択）

n=2,349



Q スムーズBizを行う後押しになったもの（1番から3番まで順位付けで回答）

n=2,349



◆スムーズビズについて◆

○スムーズビズ、テレワーク、時差出勤、物流効率化について、評価や課題に関する様々な意見が出ている。

Q これまで、テレワークや時差出勤、物流効率化などに取り組むうえ、課題を克服したり、良い結果を得られたりした事例や、これらの取組推進に当たっての意見について

【スムーズビズについて】

- テレワークや時差出勤により**社員の満足度が向上し、交通費の削減や会社への信頼が向上した。**
- **他社の取組事例をHPや冊子で紹介いただけたら**さらなる取り組みの参考になる。
- **経営者の意識改革**を何かしらの形で行うことが大切
- 取り組みについて**広報をもっと積極的にすべき。**

【時差出勤について】

- 満員電車等への**社員のストレスが減少した。**
- **社員のワークライフバランスの向上**が図られた。
- **効率的な労働時間の意識が変わった。**
- 通勤の苦痛がないことで、社員が大変喜んでいて。今後は、**コミュニケーション等の課題の対策が必要**
- 行政でもっと**導入しなければならないという空気を強制的に作っていくべき。**

【テレワークについて】

- 出社しなくてもある程度の仕事であればテレワークで行えることが証明でき、**働き方改革につながった。**
- 会社でなくとも業務が出来ることが分かり、**緊急時のBCP体制の構築につながった。**
- **機器の導入費用等の補助を増やして欲しい。**
- テレワーク時の**ストレスやコミュニケーション不足が課題**
- テレワークができない業種については**積極的に発信**するべきではない。

【物流効率化について】

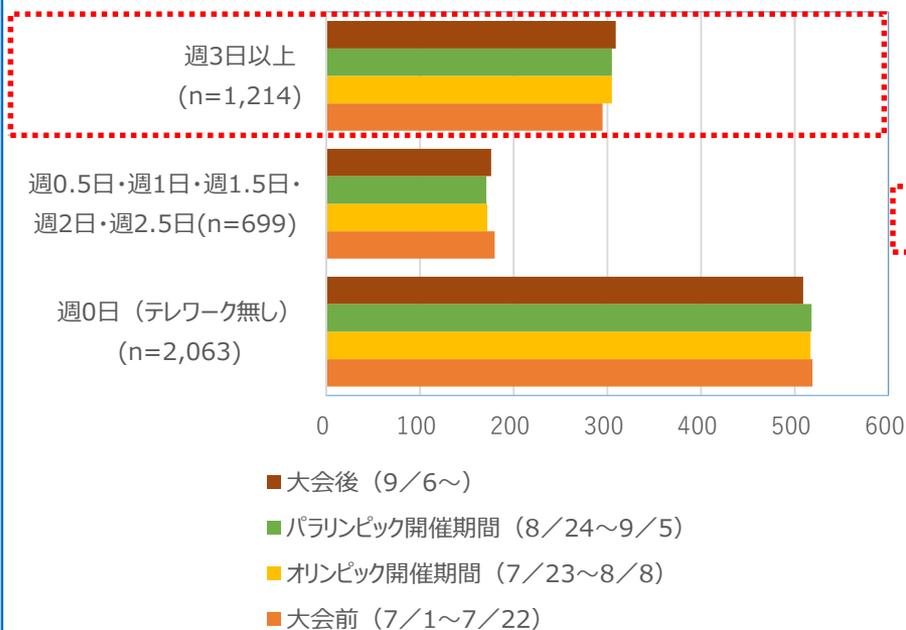
- 荷主と協議し、常に物流効率化は図っている。**オリ・パラにあたっては、道路渋滞等の影響を協議した。**
- 毎日から週2日に配送を変更したことで、**コストダウンにつながった。**
- **東京以外の工場の素材調達を現地調達に切替えた**
- 日々の業務で**事故のリスク軽減や、交通渋滞の緩和等が考えられるので是非推進**してもらいたい。
- 物流効率化は、**荷主の理解を得られないと難しい。**

2 従業員へのアンケート調査

◆勤務先のテレワーク・時差出勤・フレックスタイム制の実施状況◆

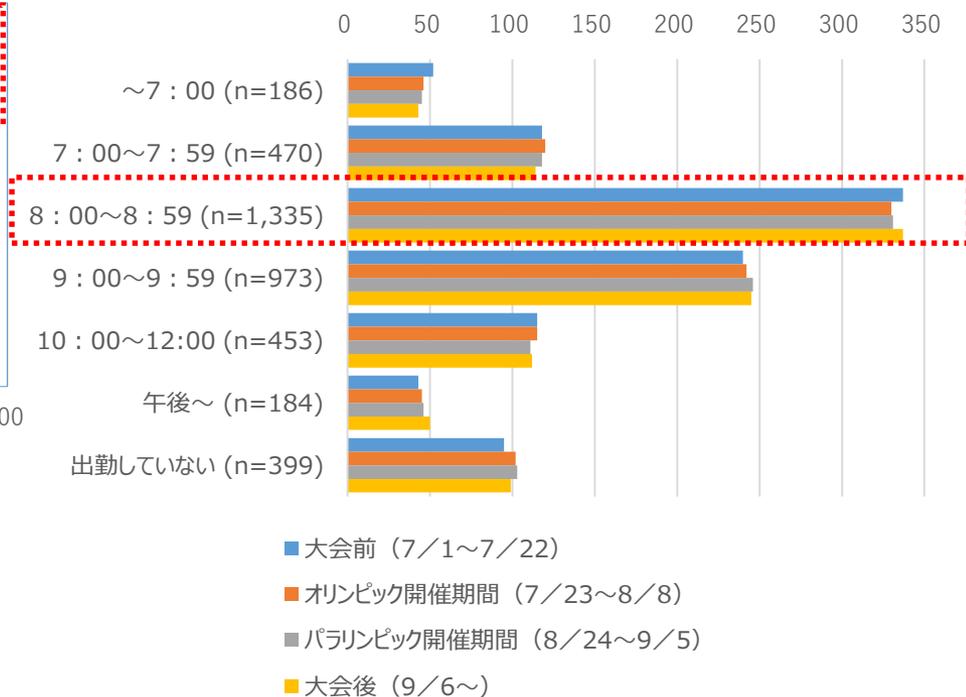
- テレワークは、「週3日以上」実施した人が約3割いる。また、大会前から大会後にかけて実施した人が微増している。
- 入社時刻については、各期間とも、「8：00～8：59」の時間帯に出勤した人が3割強と最も高い。

Q 各期間中における「テレワーク」の実施状況について
(1つ選択)



(n=1,000)

Q 各期間中、最も頻度が多かった時間帯 (入社時刻)
について (1つ選択)



(n=1,000)

◆勤務先のテレワーク・時差出勤の効果◆

- テレワーク、時差出勤ともに、「ライフワークバランスが向上した」との回答が多い。
- 一方、「仕事の満足度や労働意欲が向上した」については、少数であった。

Q 「テレワーク」の実施における効果について

Q 「時差出勤」の実施における効果について

「テレワーク」

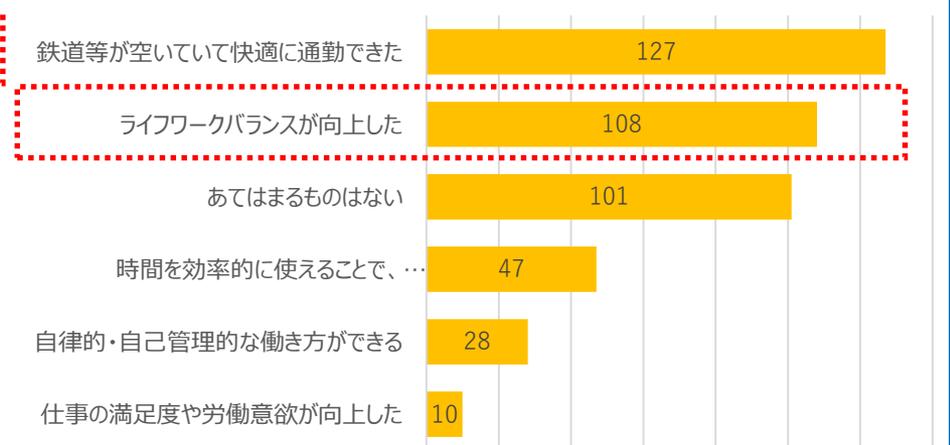
0 50 100 150 200 250 300



(n=509)

「時差出勤」

0 20 40 60 80 100 120 140



(n=421)

※各質問とも、最も近い選択肢を1番から3番まで順位付けで回答。本グラフは、1番多い選択肢を集計したものである。

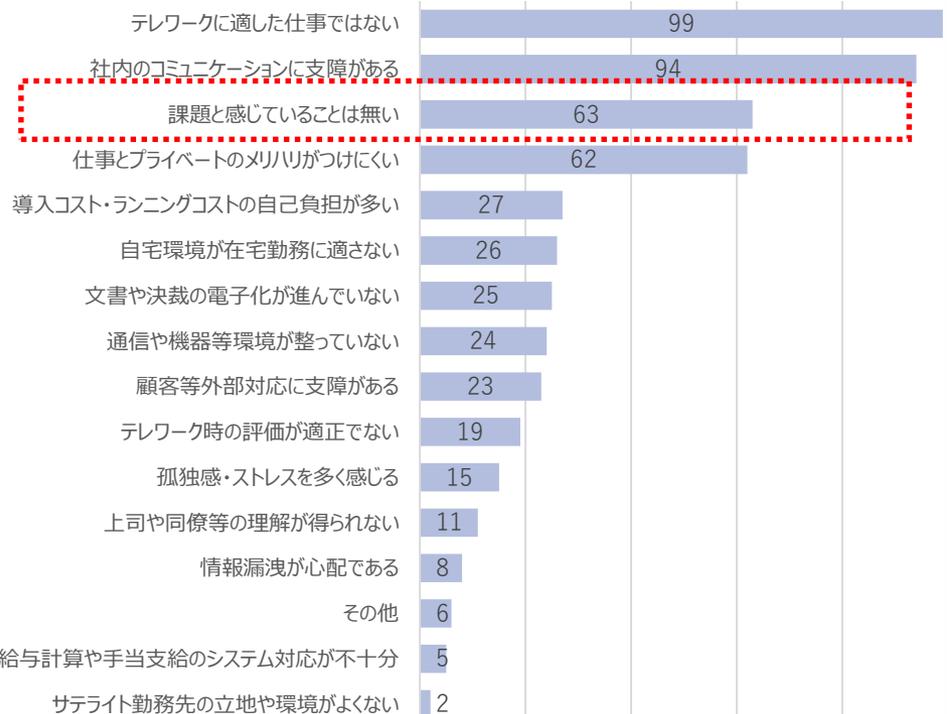
◆ 勤務先のテレワーク・時差出勤等の課題 ◆

- テレワークの課題については、「テレワークに適した仕事でない」、「社内のコミュニケーションに支障がある」の順に高い。
- テレワーク、時差出勤等ともに、「課題と感じていることは無い」と答えた人の割合が高い。

Q 「テレワーク」の実施における課題について

「テレワーク」

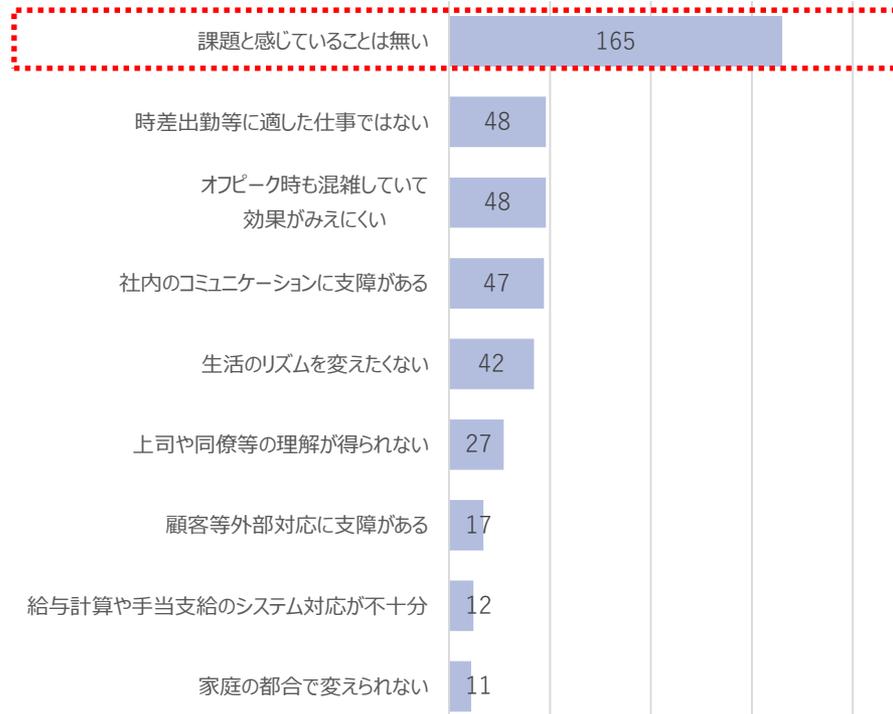
0 20 40 60 80 100



Q 「時差出勤等」の実施における課題について

「時差出勤等」

0 50 100 150 200



(n=509)

(n=421)

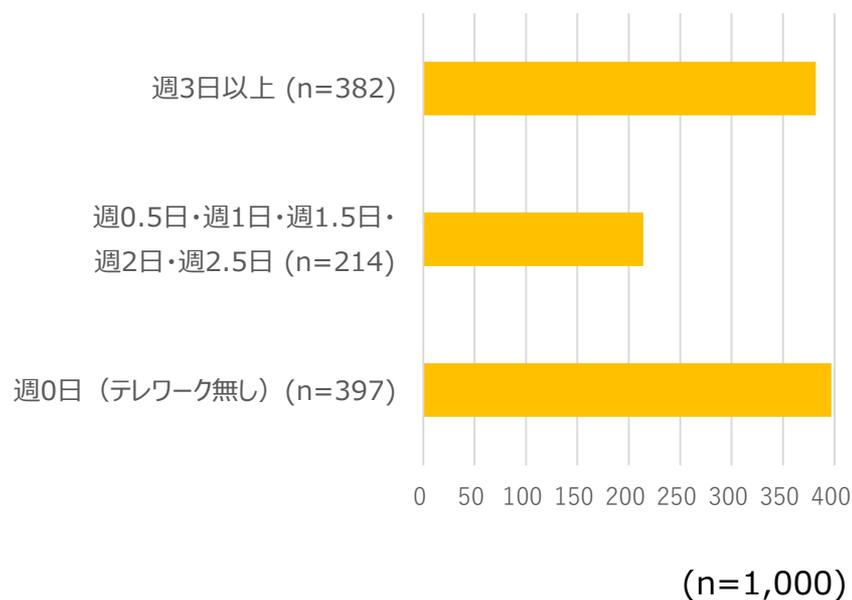
※各質問とも、最も近い選択肢を1番から3番まで順位付けで回答。本グラフは、1番の選択肢を集計したものである。

◆ 勤務先のテレワーク・時差出勤の今後の意向 ◆

- テレワークについては、「週0日（テレワーク無し）」、「週3日以上」を希望する人が、それぞれ約4割いる。
- 時差出勤については、「毎日決まった時間に出勤したい」、「通勤時間帯の混雑を避けて出勤したい」人が、3割超いる。

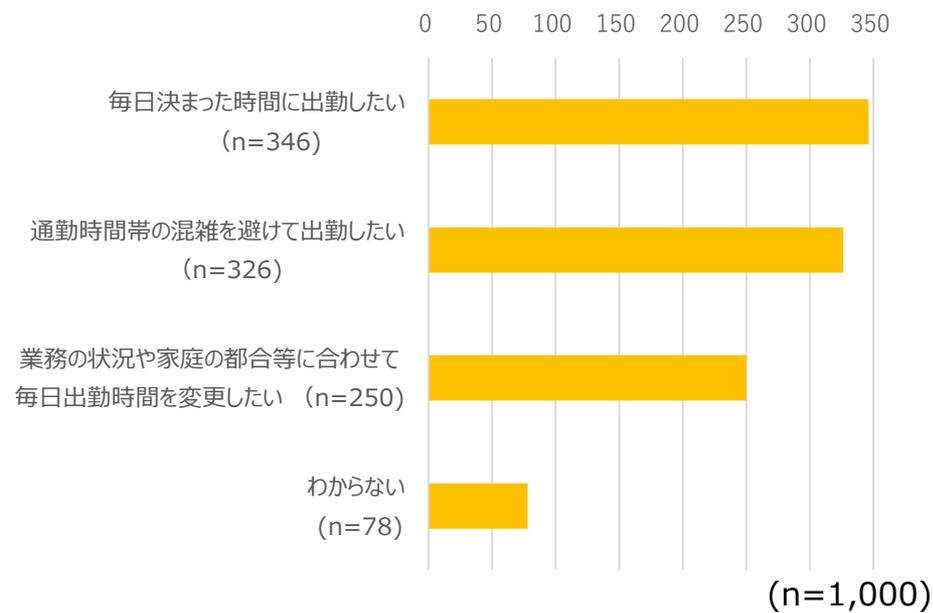
Q 「テレワーク」に関わる今後の意向について（1つ選択）

「テレワーク」



Q 「時差出勤等」に関わる今後の意向について（1つ選択）

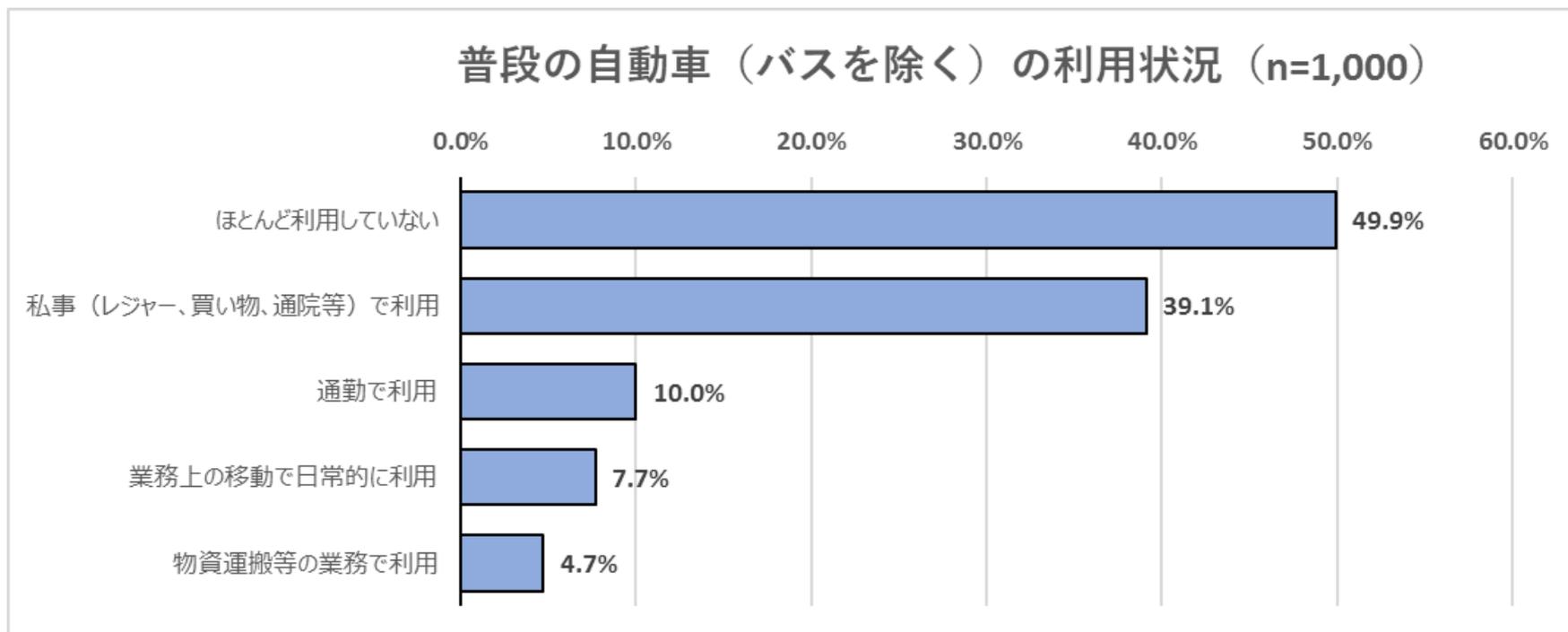
「時差出勤等」



◆ 普段の自動車（バスを除く）の利用状況について ◆

- 普段の自動車（バスを除く）の利用状況について、「ほとんど利用していない」が約5割で一番多い。
- 「通勤で利用」や「業務上の移動で日常的に利用」は、それぞれ約1割であった。

Q 普段の自動車（バスを除く）の利用状況について（複数選択可）



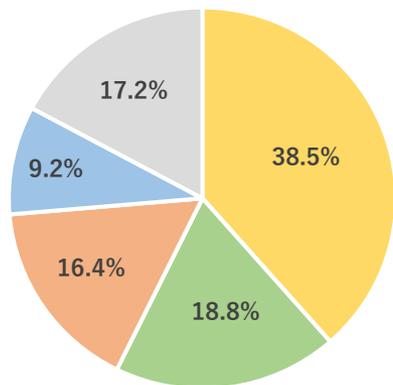
◆大会期間前後の一般道路の自動車の利用頻度について◆

- 大会前は、「ほぼ毎日」、「週3～5日程度」利用する人を合わせると、3割弱であった。
- 「利用頻度は減った」人の割合は、大会期間中は約1割で、大会後は、減少した。

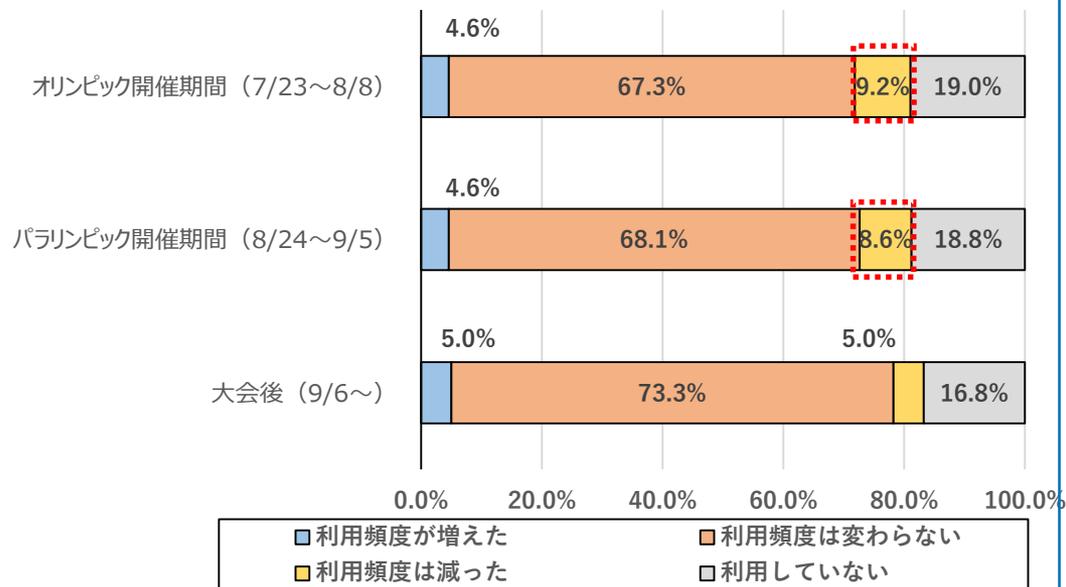
Q 各期間における一般道路の利用頻度について（複数選択可）

大会前（6/21～7/11）の自動車による一般道路の利用頻度

(n=501)



自動車による一般道路の利用頻度の増減（大会前との比較）



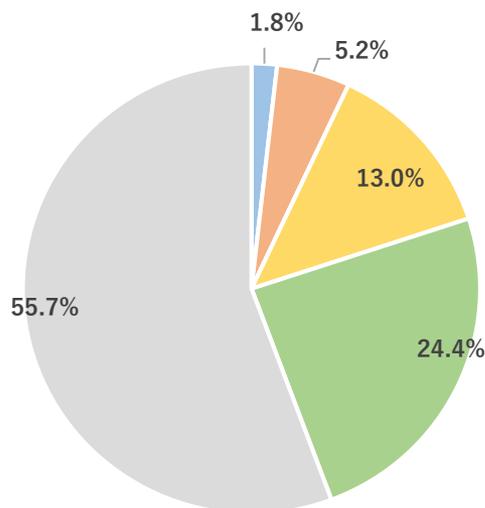
(n=501)

◆大会期間前後の高速道路の自動車の利用頻度について◆

- 大会前の利用頻度は、「利用していない」が6割弱だった。
- 「利用頻度は減った」人の割合は、大会期間中は約1割であった。

Q 各期間における高速道路の利用頻度について（複数選択可）

大会前（6/21～7/11）の自動車による
高速道路の利用頻度

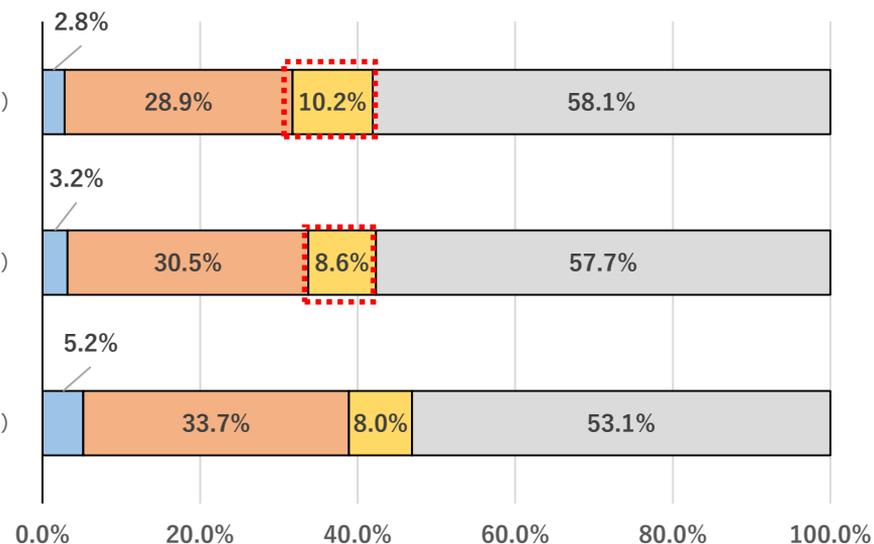


オリンピック開催期間（7/23～8/8）

パラリンピック開催期間（8/24～9/5）

大会後（9/6～）

自動車による高速道路の利用頻度の増減
（大会前との比較）



■ ほぼ毎日 ■ 週3～5日程度 ■ 週1～2日程度
■ ひと月に1～2回程度 ■ 利用していない

■ 利用頻度が増えた ■ 利用頻度は変わらない
■ 利用頻度は減った ■ 利用していない

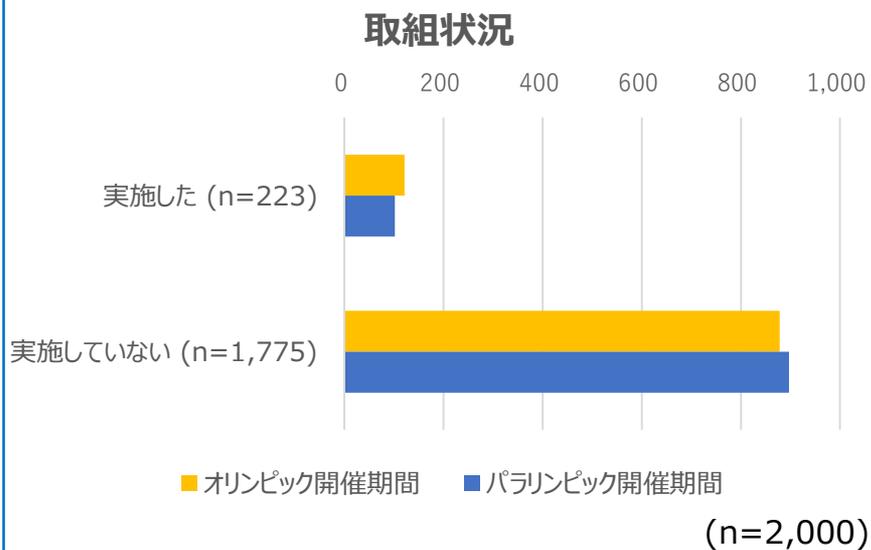
(n=501)

(n=501)

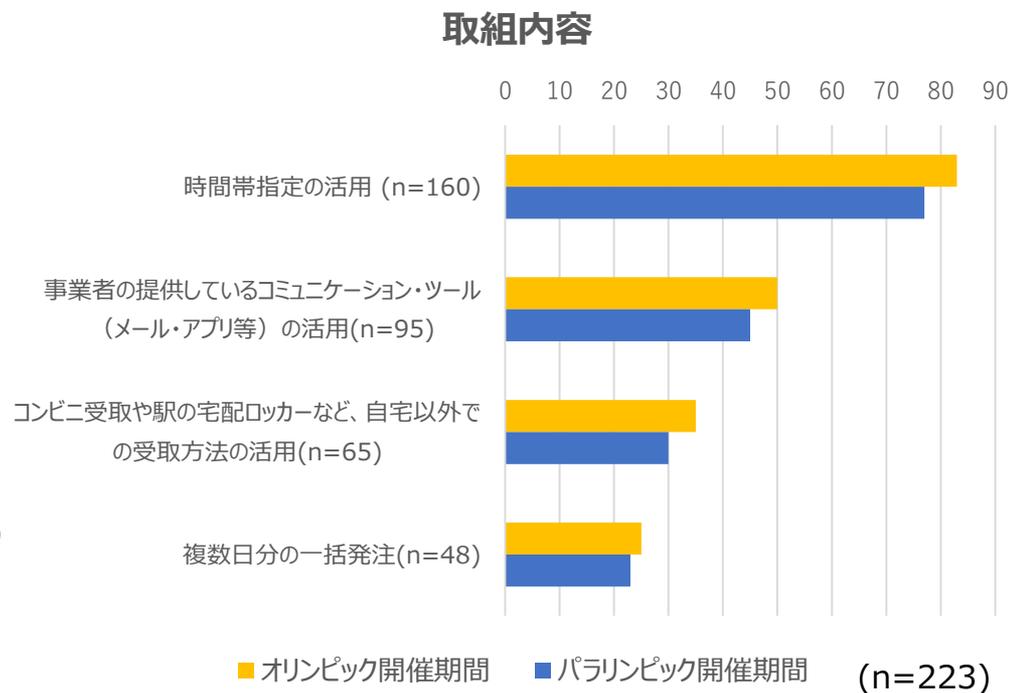
◆大会期間中における効率的な配送に繋がる取組状況及び取組内容◆

- 大会期間中いずれも、実施した人の割合は約 1 割になっている。
- 取り組んだ人のうち、約 7 割の人が「時間帯指定の活用」をしており、次いで「事業者の提供しているコミュニケーションツール（メール・アプリ等）の活用」となっている。

Q 効率的な配送に繋がる取組について（1つ選択）



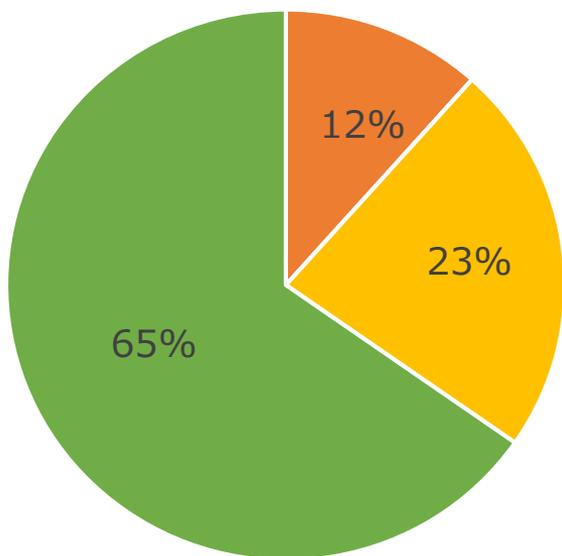
Q 実施した取組内容について（複数選択可）



◆スムーズBizについて◆

- 名前・取組内容について知っている/名前は聞いたことがある人の割合は、約4割となっている。
- 名前・取組内容について知っている人のうち、スムーズBizを知ったきっかけは、「都の公式ホームページ・スムーズBizホームページ等」が約3割と最も多い。

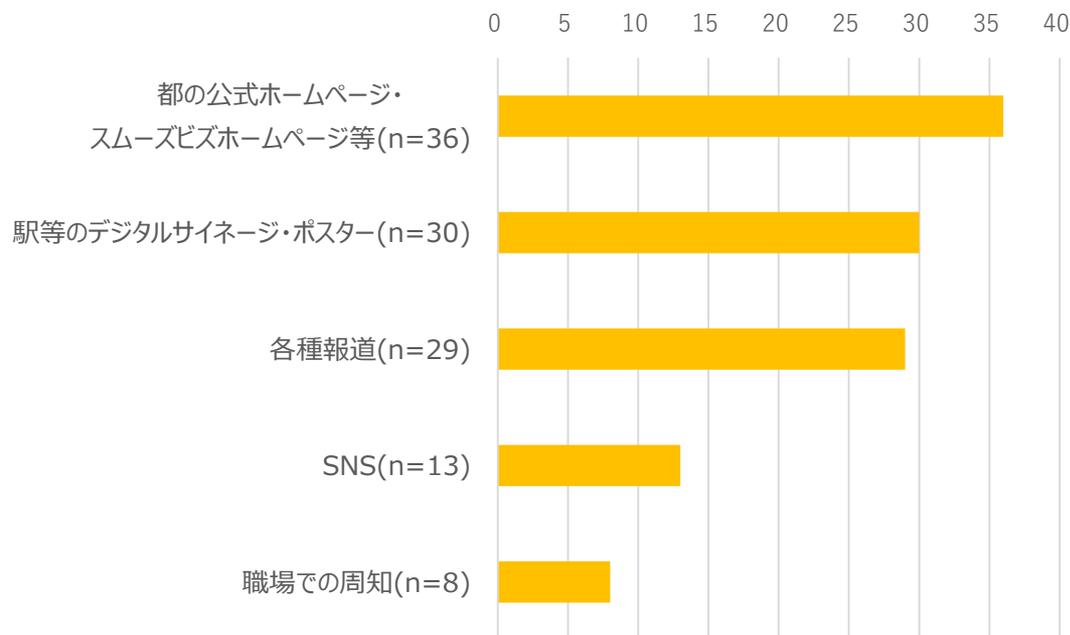
Q 「スムーズBiz」について、どの程度ご存知ですか。



- 名前と取組内容について知っている
- 名前は聞いたことがある
- 知らない (今回初めて知った)

(n=1,000)

Q 知ったきっかけは何ですか。(主なものを1つ選択)



(n=116)

◆スムーズビズについて◆

○スムーズビズ、テレワーク、時差出勤について、評価や課題に関する様々な意見が出ている。

Q テレワークや時差出勤等についての今後の取組意向や、あなたの会社で課題になっていること、取組推進に当たって行政に望むこと

【スムーズビズについて】

- アフターコロナにおいも柔軟な働き方が一般化され、社会でもスタンダードであるとの認識が定着化してほしく、**行政、企業とも好事例を取り上げて推奨**すべき。
- もともとシフト勤務を実施してきたので、結果として**時差通勤を継続**してきた。部署によって、**テレワークを増やす傾向**にある。**業務効率も上がっている**。
- 今年10月からテレワーク・時差勤務を暫定対策ではなく、**正式に働き方の制度として導入することになった**。
- **上層部の理解**が必要

【テレワークについて】

- 集中してする仕事にはテレワークが非常に向いている。
- **生産性が上がり、睡眠時間も増えて体調が良くなりました**。
- 会社でなくとも業務が出来ることが分かり、**緊急時のBCP体制の構築につながった**。
- **上層部の理解が必要**。
- テレワーク時の**ストレスやコミュニケーション不足が課題**
- **体調が悪い時でも仕事をしてしまう**。

【時差出勤について】

- クライアント訪問が必要な職種では無理なく行うことができた。
- 職種にもよるが**時差出勤は可能な限りすべき**。
- ピーク時間外の移動には電車賃の割引をする。